

子どもから、未来をひらこう。

認定NPO法人キッズドア
インパクトレポート
2024-2025

本レポートについて

すべての子どもが夢や希望を持てる社会へ

本レポートは、2024年度の事業を中心に、キッズドアの多様な活動のソーシャルインパクトを可視化し、キッズドアファミリーの皆様と成し遂げてきたことをご報告するために作成しました。

2024年度は2023年度から継続してきた学習会や居場所の活動、コロナ禍をきっかけに開始した困窮子育て家庭の支援を行うファミリーサポート事業や体験活動を拡大しました。年間を通じて学習支援や居場所支援を提供した子どもは2112人、体験活動やキャリア教育を提供した子どもは3954人、ファミリーサポート登録世帯は4978世帯となりました。キッズドアの幅広い活動が、相乗効果を発揮し、困難な状況にある子どもや世帯に非常に良い成果をあげることができました。

こども家庭庁が発足し、家庭の所得状況などにかかわらず、すべての子どもを対象とした手当や支援が拡充する中で、所得の再分配機能は弱まっているように感じます。景気が上向き、大手企業を中心に大幅な賃上げなども進みますが、私たちのサポートが必要な非正規ひとり親家庭などは賃上げの恩恵もほとんどなく、今後も格差がますます拡大することが予想されます。

十分な食事が取れず、子どもも親も痩せていくような状況は早急に改善されなければなりません、さらに重要なのは、子どもが自分の力で未来を切り開く力、夢や希望を見つけ、それを叶える力を身につけることだと考えます。そして、そのためには何よりも教育が重要です。

このインパクトレポートが、キッズドアの多様な活動が社会に創出する価値を包括的に捉え、私たちのビジョン「すべての子どもが夢や希望を持てる社会へ」にどう繋がるのかを、キッズドアファミリーの皆様と共に思考を深める一助になれば幸いです。

キッズドアファミリー：寄付者、ボランティア、企業、団体、行政等あらゆるステークホルダーを、子どもが中心の社会を実現する仲間として「キッズドアファミリー」と名付けました。

目次

本レポートについて … 3

2024年度の足跡 … 5

数字でわかる2024キッズドア … 6

ACジャパン支援キャンペーン … 7

課題の現状とセオリー・オブ・チェンジ

SDGsとキッズドア … 9

世帯と学力や進路の関係 … 10

教育格差の背景 … 11

学びと幸福度 … 12

家庭の社会経済背景と学力 … 13

教育格差の解消が貧困の連鎖を断ち切る … 14

支援現場からのリアルな声で制度を変える … 15

すべての子どもへの支援の拡大 … 16

キッズドアファミリーを増やす … 17

めざすのは「未来を切り開く力」の獲得 … 18

キッズドアの支援が生み出すインパクト

医師になる夢を追いかけて東北大医学部合格へ … 20

キッズドアがなければ私は今ここにいません … 21

学習支援・居場所支援・体験活動

学習支援の類型 … 23

2024年度に実施した学習支援 … 24

格差の拡大と新たに出現した支援が必要な層 … 25

支援する子どもの人数推移 … 26

高校生対象居場所型学習支援の事業例 … 27

教育型オンライン学習支援の事業例 … 29

大学等進学実績 … 31

情報支援・キッズドア高校生情報室 … 32

福祉型拠点支援の事業例 … 33

体験格差とキッズドアの体験活動 … 35

世帯支援：ファミリーサポート

日本全国の困窮子育て家庭5000世帯のデータベース … 38

登録世帯の状況 … 39

ファミリーサポートの効果 … 40

中間支援：全国プラットフォーム

中間支援事業で全国の子ども支援団体をサポート … 43

日本全国の子ども支援団体へのスキルアップ … 44

困窮子育て家庭の食支援「ごはん応援プロジェクト」 … 45

高校生世代の子育て家庭「くらしと学びの危機」緊急支援 … 46

デジタル格差解消

新しい社会課題・デジタル格差 … 48

パソコンの無償配布による環境整備 … 49

困難を抱える女子高校生対象IT&デザインプログラム「IFUTO」 … 50

ChatGPTと会話するプログラミング講座 … 51

アドボカシー・ロビイング

制度改革ですべての子どもを応援する … 54

子どもの貧困対策推進議員連盟—教育格差WT … 55

2024年度に実現した子ども関連の支援施策 … 56

ガバナンスと内部体制の強化

すべてのステークホルダーからの信頼を得るために … 59

2024年度の足跡

学習支援 居場所支援

2,112人

 高校生979人
 中学生826人
 小学生307人

 オンサイト 1,810人
 オンライン 302人
 キッズドア学園オンライン 146人
 English Driveオンライン 79人
 メディカルコースオンライン 77人

 大学・短大・専門学校
 合格者数 212人

高校進学者 155人

 居場所等常設 13箇所
 学習会型事業 46教室
 オンライン 3事業

体験活動・ キャリア教育

3,954人

+ 43,000人（共育プラザ利用者）

 学習体験 7回
 自然体験 5回
 文化体験 16回
 スポーツ体験 7回
 社会体験 3回
 外食・レジャー体験 3回

+

 学習会や居場所での
 体験活動 47回

ファミリーサポート ヤングサポート

15,289人

 *ファミリーサポート登録世帯
 4,978世帯（平均3.1人/世帯）

 情報支援 265回
 食料&物資支援 6,839世帯
 体験活動 115回 16,900名
 就労支援 152名

2,878人
 ヤングサポート登録者数

中間支援

217団体

 三菱商事 109団体
 ごはん応援 96団体
 休眠預金 12団体

 分配した資金 **4億7700万円**

アドボカシー・ ロビイング

202回

メディア掲載数

 調査及び記者会見 2回
 こどもの貧困対策推進議員連盟・教育格差解消WT会合の開催 12回
 教育格差シンポジウム 1回 参加者150名

2024活動ダイジェスト

全国の団体へのノウハウ支援

43 都道府県 **213** 団体

キッズドアが長年蓄積してきたノウハウを全国の団体の皆様へお伝えしています。熱心に活動されている現地の皆様とともに、これからもキッズドアは子どもへの支援を行っていきます。

ご協力いただいた 企業や団体

287 社・団体

今年も多くの皆様のご協力により、キッズドアは子どもへの支援を行うことができました。寄付だけでなく、プロボノや物資提供などのご支援が生徒の笑顔を支えています。

大学・短大、専門学校 合格者数（延べ）

212 人

防衛医科大学校（医）、東京科学大学（医）、東京藝術大学、東京都立大学、上智大学など

2022年から全国の高校生を対象にオンラインでの受験支援をスタートさせるなど、様々な生徒のニーズに合わせた学習支援をキッズドアは行っています。今後も難関大学に限らず、生徒の志望校に合わせたきめ細かいサポートを全国の高校生に行っていきます。

高校進学者数

国公立

155 人

私立

96 人

今年も初めての受験を迎える中学3年生をボランティア講師を中心にサポートし続けました。生徒一人ひとりに寄り添った支援により251名の中学3年生が高校へと進学しました。



ファミリーサポート物資&情報 &就労支援&体験活動対象者数

延べ **826,682** 名

「ファミリーサポート」では全国のご家庭を対象に食料や進学情報の提供に加えて、就労支援を行いました。支援した人数は延べ826,682名に上りました。

・情報支援 **785,729** 名 (265回)

・食料支援を含む物資支援 **23,901** 名 (6,839世帯)

・体験活動支援 **16,900** 名 (115回)

・就労支援 **152** 名

数字でわかる 2024キッズドア

2024年度も多くの方に支えられ、キッズドアは活動を行うことができました。そんな2024年度のキッズドアの活動・成果の中でも特に印象的なものを数値化して表しています。

生徒数合計

2,112 人



今年も小学生から高校生世代まで多くの生徒がキッズドアの学習会に参加しました。勉強だけではなくキャリアイベントに参加する生徒も多く見られました。オンラインでの学習支援も引き続き行い、場所の制限なく全国各地から生徒がキッズドアの支援を受けています。

高校生世代

979 人

小学生

307 人

中学生

826 人



ボランティア人数

1,057 人



大学生から社会人、年配の方まで今年も1,000名を超えるボランティアが生徒のロールモデルとして活躍しました。オンラインでの支援も定着し、全国からはもちろん、海外からオンラインで参加されるボランティアも増えています。

教室数

66 か所



東京だけではなく、埼玉、東北、神戸でキッズドアの学習会が開催されました。勉強を学ぶだけではなく、生徒の居場所やキャリアイベントの開催など、それぞれの拠点において特色のある学習会が開かれています。

年間学習会開催回数

5,880 回



少しでも多くの生徒に参加してほしい。そんな思いでキッズドアの学習会は年間5,000回以上も開催されています。今年もオンラインを含め日本全国から多くの生徒が学習会に参加し、成長をしています。

メディア掲載数

202 回



今年も新聞、ラジオ、雑誌、テレビなど多くのメディアにキッズドアの活動を掲載していただきました。

2024活動ダイジェスト

ACジャパン支援キャンペーン

公益社団法人ACジャパン（以下、ACジャパン）による2024年度ACジャパン支援キャンペーンに採択され、7月1日（月）より1年間、全国のテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の各メディアおよび電車内中吊り広告で、広告が放送・掲載されました。2025年度も引き続き採択され、新しいキャンペーン「子どもたちの未来をひらく、ドアになる」がスタートしています。



気づきを、動きへ。

スタートラインは、みんな同じだと思っていた。

家庭の経済格差が生み出す、子どもの教育格差。
 そのせいで、未来を諦めるしかない子どもがいます。

周囲の子には当たり前であるのに、通うことができない。
 親の代わりに家事やきょうだいの世話をしなければならず、自分の学習時間がつかれない。

頑張っているのに、周囲の子たちに追いつけない。
 本人の努力に関係なく、家庭の収入格差がそのまま子どもの教育格差に繋がっています。



すべての子どもが夢や希望を持てる社会へ #キッズドア



キッズドアは、対面・オンラインでの無料学習会やキャリア教育などの学習支援で、子どもたちが自由に夢や希望を掲げる社会を目指しています。 ※本サイトに掲載されている内容は、2024年7月1日現在のものです。



気づきを、動きへ。

子どもたちの未来をひらく、ドアになる。

家庭の事情、学びの遅れ、居場所のなさ。
 「行き先」はあったとしても、
 たどり着く手段を持たない子どもたちがいます。

キッズドアは、そんな子どもたちが「進み出すきっかけ」に。

今はまだ、発車前のホームに立っているだけかもしれない。
 でも、目の前のドアが開けば、景色は変わります。

そのドアの先の、未来の自分にワクワクしよう。



KIDSDOOR 無料の学習会やオンライン学習などの
 学習支援活動を行っています。

課題の現状とセオリー・オブ・チェンジ

キッズドアについて

SDGsとキッズドア

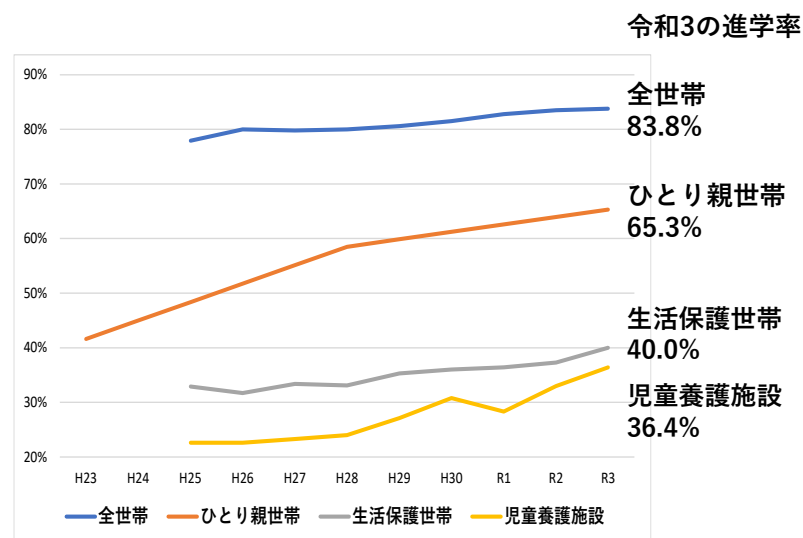
キッズドアは、子どもの貧困や学習支援への取り組みで「目標1 貧困をなくそう」「目標4 質の高い教育をみんなに」「目標5 ジェンダー平等を実現しよう」、また子どもたちが将来の経済成長の支え手になるよう支援したり、シングルマザーの就労支援を行うことで、「目標8 働きがいも経済成長も」に取り組んでいます。持続可能な社会の実現に向けて、今後も取組を加速します。



世帯と学力や進路の関係

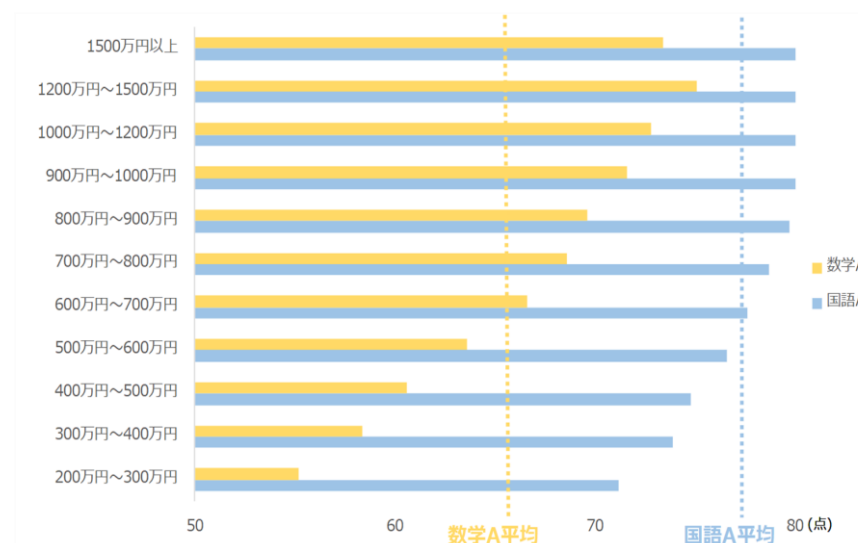
キッズドアが創業以来取り組んでいる大きな課題は「教育格差」です。世帯の形態や所得が子どもの学力や進路に大きく影響しています。

大学等進学率の推移



*全世帯のデータは文部科学省「学校基本調査」、その他データは子ども家庭庁「子ども・若者、子育て家庭を取り巻く状況について」よりキッズドア作成。

世帯年収と子どもの学力（中学3年生）

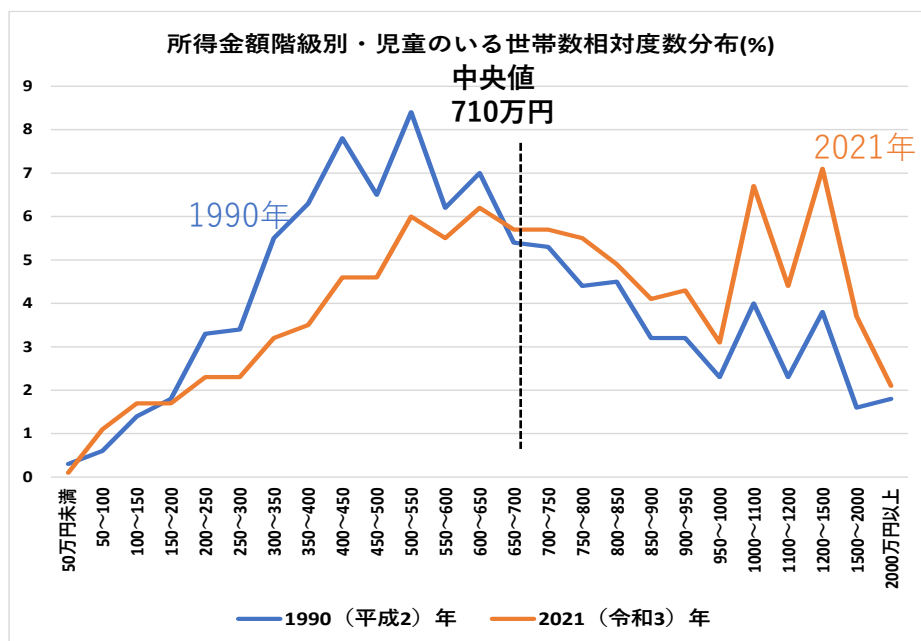


*「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）」の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学）

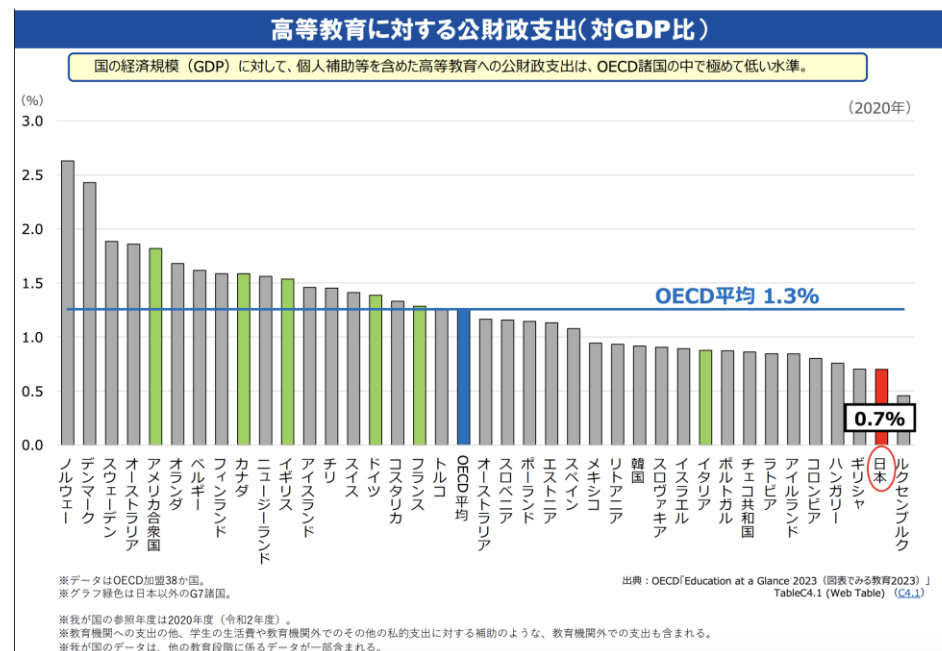
教育格差の背景

日本では、公的財政での教育支出が他の先進国に比べて非常に低いことが、教育格差の大きな原因です。高等教育に対する公的財政支出の対GDP比ではOECDの平均が1.3%であるのに、日本は0.7%しかありません。

児童のいる世帯は、世帯所得が1000万円を超える家庭が増えており、児童のいる世帯の所得の中央値は710万円（全国民423万円）となっています。児童のいる世帯の所得格差は今後さらに拡大すると推測されます。



* 国民生活基礎調査をもとにキッズドア作成。



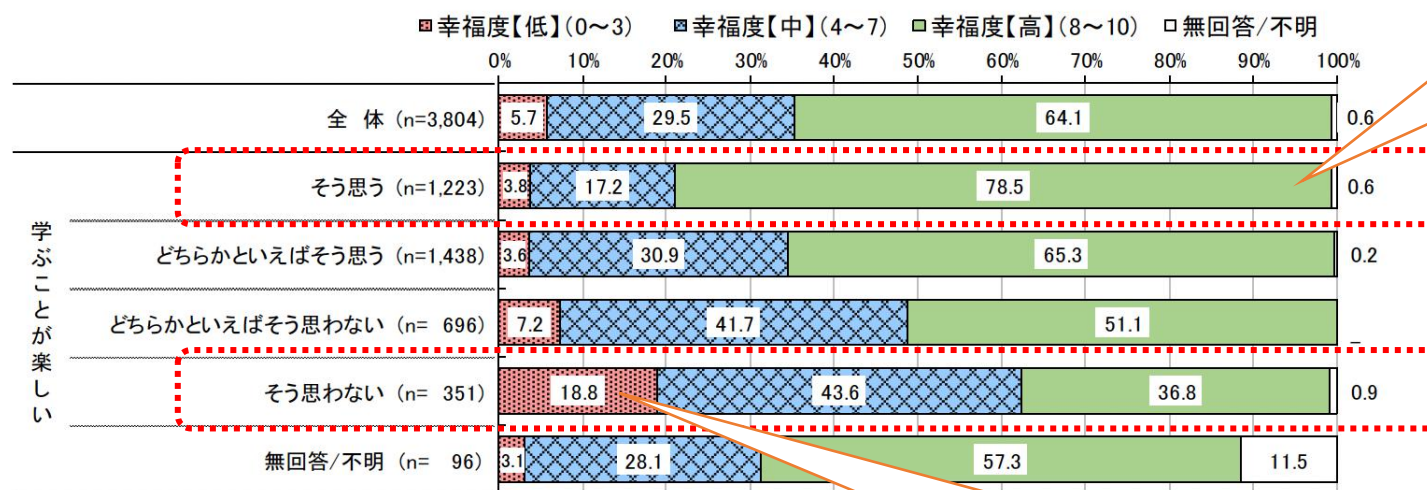
文部科学省：大学分科会（第181回）・高等教育の在り方に関する特別部会（第15回）合同会議
議配付資料「参考資料1 関係データ集」より
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/053/siryo/mext_01994.html

学びと幸福度の関係

子どもの貧困対策では、勉強の前にまずは生活の安定や安心できる居場所が重要であるという論調があります。しかし、私たちは、学習支援こそが子どもの幸福度を上げるためにも非常に重要であると考えています。

最初は、勉強にやる気がなく、遅刻したり勉強道具を持ってこないような子どもも、丁寧に勉強を教え、「わかる」「できる」体験をすることで、とてもイキイキとし、新しいことに挑戦をしたり、友人関係、家族関係が上手くいく子どもがたくさんいます。勉強がわからなければ、1日の大半を過ごす学校の授業は苦痛です。自己肯定感も下がります。受験の不安、ひいては将来の自立の不安もあります。

子どもの自己肯定感や幸福度を上げるためにも、キッズドアは「学習支援」を大切にしています。



幸福度【高】
学ぶことが楽しいと回答している子どもほど、幸福度が高い

幸福度【低】
学ぶことが楽しいと思わないと回答している子どもの幸福度が低い

東京都子供政策連携室：
「とうきょうこどもアンケート」報告書（令和6年調査）

家庭の社会経済背景と学力

最新の全国学力調査では、家庭の社会経済的背景（SES: Socio-Economic Status）が低いほど、令和3年に比較して令和6年は大きく学力スコアが下がっています。教育格差が拡大していると推測されます。

子供の学習費調査からは、小中高のいずれにおいても、公立・私立とも、年収が高くなるほど、子どもの学習費の支出額も多くなっています。

ポイント

- ・家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いグループほど、経年変化分析調査のスコアが低い傾向が見られる。
- ・令和3・6年度経年変化分析調査のスコアをSESが同じ層同士で比較したところ、特に小学校国語、中学校国語、中学校数学において、SESが低い層の方がスコアの低下が大きい状況が確認された。この背景については、慎重に分析する必要がある。

*全国学力・学習状況調査では、児童生徒質問調査での「家にある本の冊数」（児童生徒〔23〕）をSESの代替指標として利用している。

「SES」と「経年変化分析調査のスコア」との関係

スコア（SESが同じ層同士での比較）

小国	0-25冊	26-100冊	101冊以上	中国	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	463.9	511.7	535.1	R3	479.6	517.8	538.0
R6	448.7	502.3	526.2	R6	466.8	512.5	535.5
R6-R3	-15.1	-9.3	-8.8	R6-R3	-12.8	-5.3	-2.5

小算	0-25冊	26-100冊	101冊以上	中数	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	462.9	512.5	541.4	R3	484.0	517.5	536.3
R6	444.4	500.1	525.3	R6	474.0	515.3	536.8
R6-R3	-18.5	-12.4	-16.1	R6-R3	-10.0	-2.2	0.5

中英	0-25冊	26-100冊	101冊以上
R3	474.6	508.1	522.9
R6	455.0	487.9	506.5
R6-R3	-19.6	-20.1	-16.4

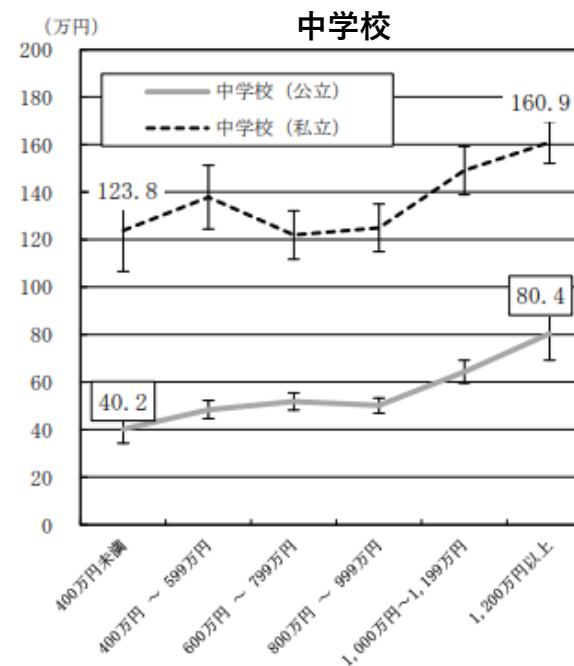
R6とR3の差については、差を算出した後に、小数第2位を四捨五入

9

令和6年度全国学力・学習状況調査「経年変化分析調査・保護者に対する調査の結果（概要）」

家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)：全国学力・学習状況調査では、児童生徒質問調査での「家にある本の冊数」（児童生徒〔23〕）をSESの代替指標として利用している。

世帯の年間収入別、学校種別学習費総額



* 文部科学省「令和3年度 子供の学習費調査」より

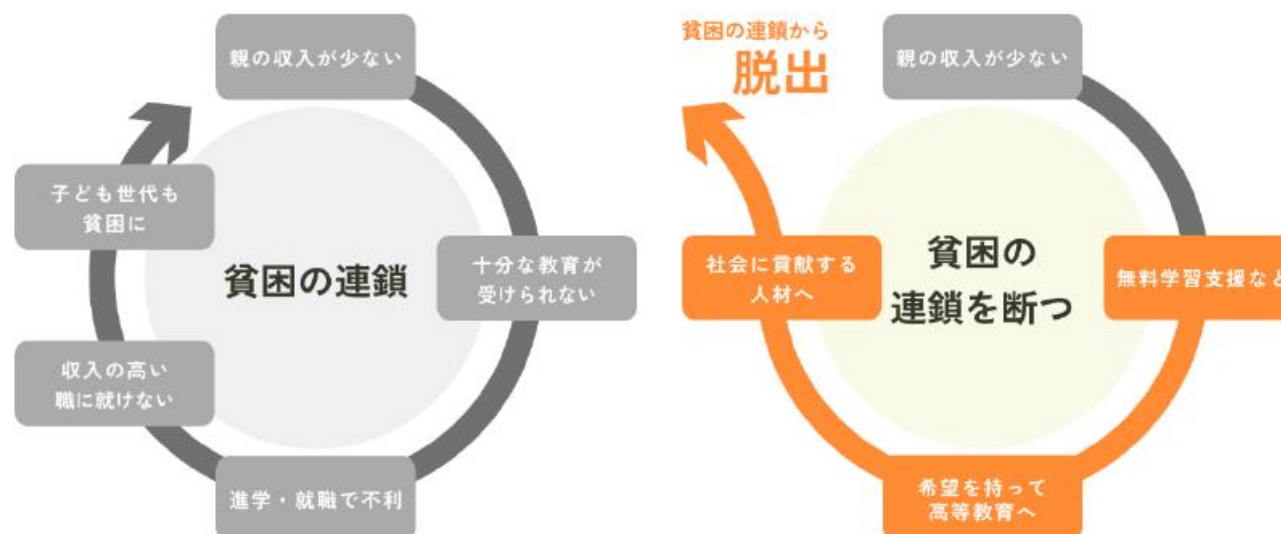
教育格差の解消が貧困の連鎖を断ち切る

教育格差が解消されると、将来の経済格差も解消される可能性が高いとされています。十分な教育機会が提供され、経済的理由による進学・就職の妨げが取り除かれれば、子ども達は将来の職業選択において幅広い選択肢を持つことができます。その結果、収入の高い職に就く可能性も高まります。

教育格差の解消は、世代間で連鎖する貧困を断ち切るために重要な取り組みです。子ども達が平等な教育を受けられるようになれば、将来的には社会全体の格差が縮小していくことから、教育格差は重要な社会課題とされているのです。

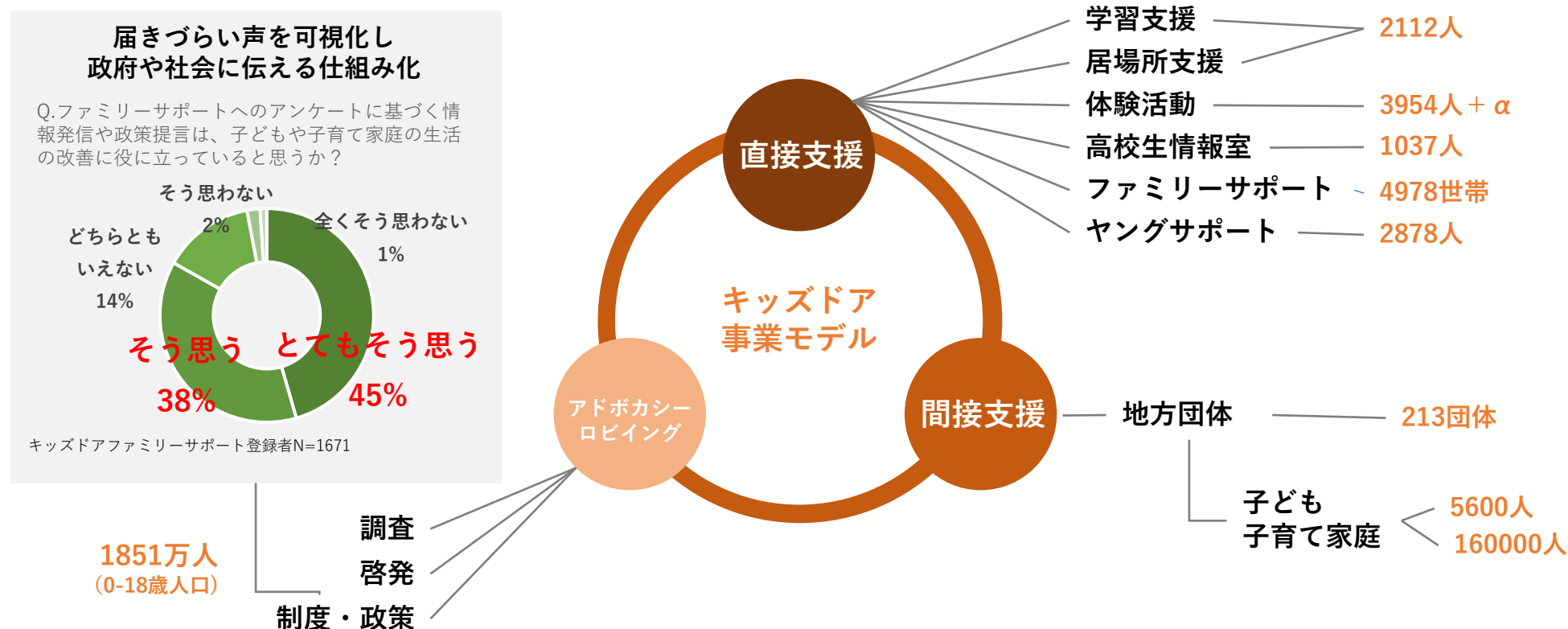
子どもの貧困を放置することによって、1学年だけの推計でも、生涯所得の合計が2.9兆円減少し、税・社会保障の純負担が1.1兆円増加します。子どもの貧困対策を放置すれば40兆円以上の社会的損失が生じる^{*1}とされています。

^{*1} 子どもの貧困の社会的損失推計レポート（日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング）



支援現場からのリアルな声で制度を変える

学習会や居場所、体験活動やファミリーサポートに登録する世帯からのリアル、日本全国の団体からの声を社会に伝え、政府に届けることで、制度を変えていきます。国やシンクタンクの調査では拾い上げられなかった、困っている方達の声から政策提言を行います。



ロードマップ

すべての子どもへの支援の拡大

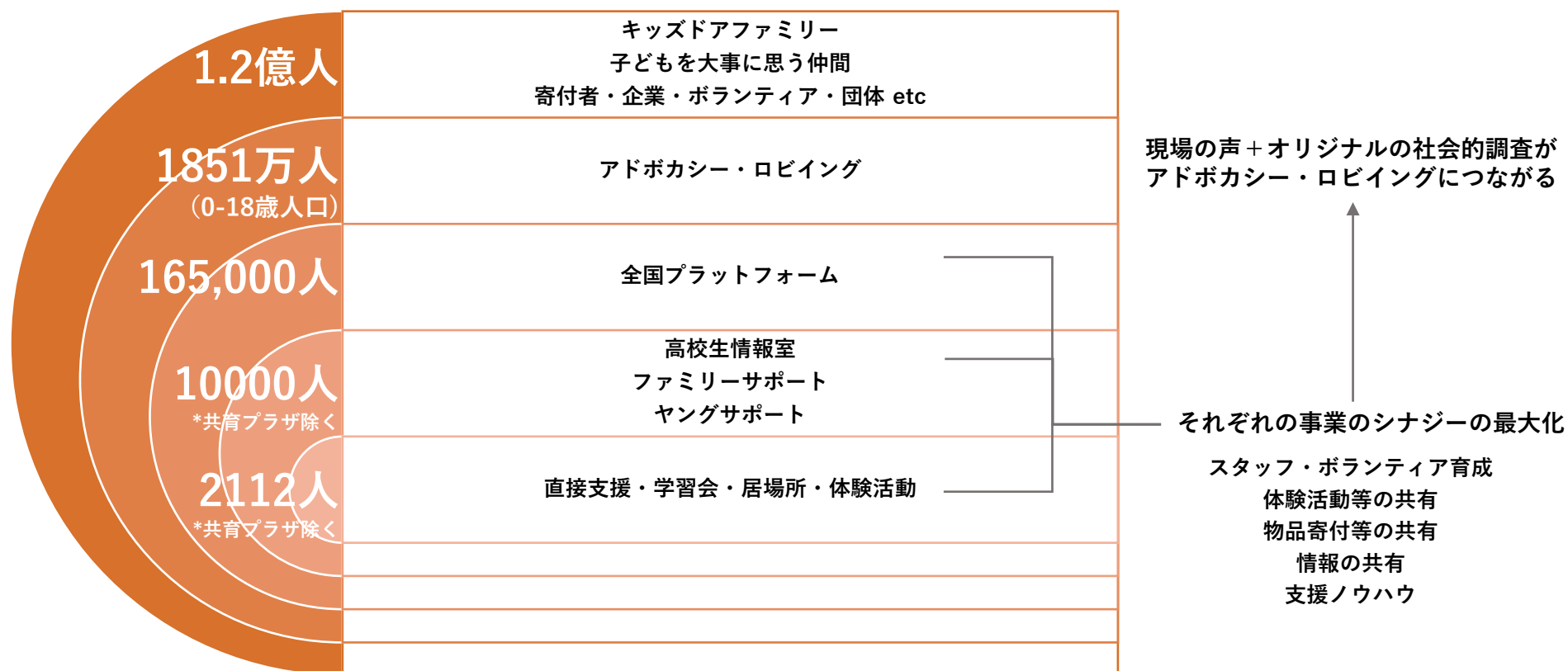
「すべての子どもが夢や希望を持てる社会の実現」のために、学習支援や居場所支援のような子どもへの支援、ファミリーサポートによる世帯の支援等の直接支援と、日本全国の団体へのノウハウ支援や資金提供を行う中間支援事業、アドボカシー・ロビイングにより「すべての子ども」へのインパクト創出に努めました。

IMPACT 実現したい社会	すべての子どもが夢や希望を持てる社会の実現			
OUTCOME 生み出したい変化	子どもの成長 未来を切り開く力の獲得	ファミリーサポート ヤングサポート 登録世帯の未来が 明るくなる	日本全国に子ども支援団体があり、 安定運営ができている 子どもや家庭がアクセス可能に なっている	子ども支援の重要性を 社会全体が認識 制度改革や新規事業が できている
OUTPUT 達成しなければ いけないこと ACTIVITY 事業内容	直接支援		間接支援(中間支援)	アドボカシー・ ロビイング
	学習支援 居場所支援 体験活動	物資支援 情報支援 体験活動 就労支援	ノウハウ提供 自立に向けての伴走支援 活動資金の提供(資金分配) 支援団体ネットワーク	調査・提言 記者会見 広報イベント 支援団体ネットワーク
INPUT 投入資源	資金 寄付 行政委託 助成金・補助金	人的・組織的資源 ボランティア スタッフ	知見&情報 学習・居場所支援の知見 保護者対応のノウハウ 各種情報(奨学金etc)	ネットワーク 行政、企業等との協働NW 子ども支援団体とのNW 議員連盟や省庁

ロードマップ

キッズドアファミリーを増やす

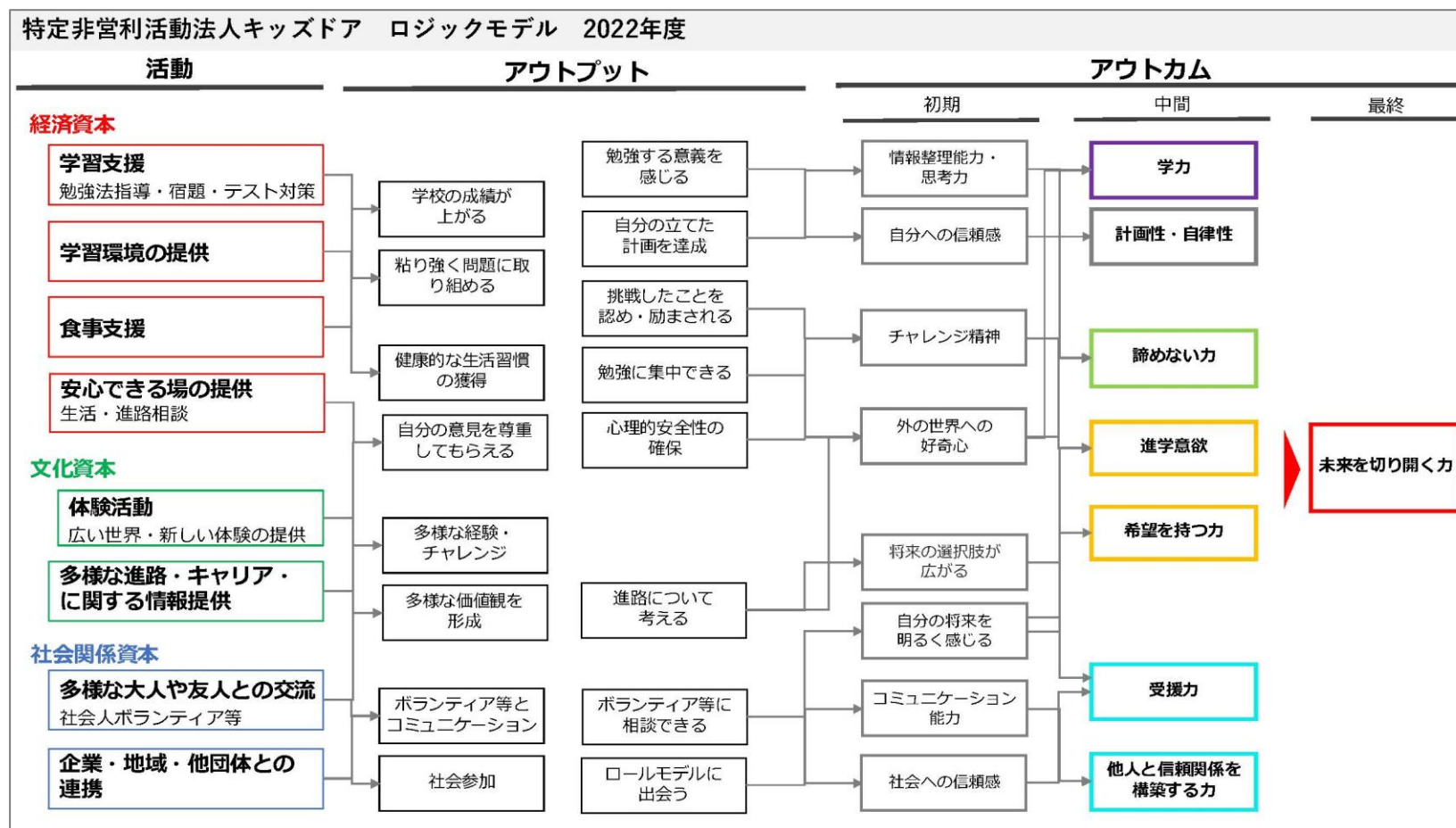
キッズドアの強みは、学習会や居場所の運営という直接的な教育支援事業、さらに日本全国の保護者や高校生とつながるデータベース、加えて研修等のノウハウ提供や休眠預金事業を活用した資金提供などでの全国の子ども支援団体とのネットワークです。日本全国の仲間と共に、「すべての子どもが夢や希望を持てる社会」の実現に向けて進んでいます。



ロードマップ

めざすのは「未来を切り開く力」の獲得

キッズドアの活動の最終アウトカムは、一人一人の子どもが「未来を切り開く力」を獲得することです。全ての学習支援や居場所、体験活動で、認知能力・非認知能力をバランス良く伸ばすことを目指しています。そのためにロジックモデルを作成し、年に2回子どもたちへのアンケートを実施して事業の評価と改善を行っています。



キッズドアの支援が生み出すインパクト

支援を受けた子どもたちの今

インパクト

2009年から子どもの支援を続けており、継続的な支援を受けて夢を叶える生徒が出てきています。支援が確実に成果につながる確信を持ち、私たちはさらに活動を拡大する挑戦を続けます。極一部ですが、子どもたちの声を伝えます。

医師になる夢を追いかけて東北大医学部合格へ

理想を追いつめるのか、それとも医師になることを目指すのか？

高校2年の夏までは勉強と部活の両立で、医学部を目指せるような成績には届いていなかったのが辛い時期でした。部活を辞めてからはほぼ毎日メディカルコースに通い、いろんなスタッフに積極的に質問するようになりました。人それぞれ考え方や解答のアプローチが異なり、それらを吸収することで大きく成長できたと感じます。

今回の共通テストの結果を受けて、当初目指していた大学の出願が難しいと分かったとき、僕は悩みました。「高いレベルの大学を目指したい」という気持ちがあったからです。そんなとき、メディカルコースのスタッフから「理想を追いつめるのか、それとも医師になることを目指すのか？」という問いかけをもらいました。その言葉のおかげで、本当に大切なことは何なのかを考え直すことができました。結果、大学にこだわるのではなく、医師になるという目標を優先し、東北大学への出願を決意しました。その問いかけをしてもらえたことをとてもありがたく感じています。

僕自身が誰かを支えられる存在になりたい

先日、無事に東北大学医学部に合格し、4月から仙台で新たな一歩を踏み出します。中学時代に手術を受けたときの感謝の気持ちは今も強く、けがで苦しむ人を救いたいという夢は変わりません。

キッズドア学園SBCメディカルコースは、ただの勉強の場ではなく、温かく、人とのつながりを感じられる特別な場所でした。気軽に相談できる環境があり、心の支えとなってくれました。その感謝の思いを忘れず、これからは僕自身が誰かを支えられる存在になりたいと思っています。



キッズドア学園メディカルコースについて

<https://kidsdoor.net/activity/study/sbcmmedical.html>

インパクト

キッズドアがなければ私は今ここにいません

こんにちは、突然のお問い合わせ失礼致します。

私は2019年、中学三年生の時に船堀校でお世話になった者です。最近キッズドアの commercials をテレビで拝見し、当時のお礼をお伝えしたくご連絡致しました。

船堀校の学習塾で学んでいる時に、将来の夢の現場を見に行くプロジェクトに参加しないかと A（当時のスタッフ）さんにお声かけを頂いたのが始まりです。

その時の夢が「劇団四季の衣裳部に入ること」で Aさんと行政の協力の元、四季芸術センターにて衣裳関連の部屋や実際に使用している衣裳を見させて貰うことが出来ました。

その後忍岡高校の生活科に進み、卒業後は文化服装学院の服装科へ進学しました。

2023年、文化服装学院生1年の夏に劇団四季のインターンの募集があり1年生ながらに応募してみました。すると、当時私がキッズドアの協力で四季芸術センターへ伺っていたことを衣裳部の課長の方が覚えていて下さり、インターンに行くことができました。そしてインターンの繋がりで、その年の10月からは劇団四季の衣裳部でアルバイトを始めることができました。

その後、正式に入団することを試みて文化服装学院2年生で劇団四季の衣裳部の採用試験に挑戦しました。

しかし結果は、年齢と経験が足りず不採用となってしまいました。それでも既に入団している先輩方に聞くと、途中で挑戦するのもありだと教えてくれました。そして何より、今のうちに好きな事を色々やって、大人になったら途中で高いお給料で入っておいでと教えてくれました。

文化服装学院は今年の3月に卒業し、今も劇団四季の衣裳部でのアルバイトは続けています。平日は本社で開幕準備、週末は有明四季劇場で他の部署の人とも関わりながら働いています。

更に劇団四季でのアルバイトの経験が役に立ち、個人の委託として掛け持ちで地下アイドルやコスプレイヤーの衣装も手がけています。

私がここまで来れたのは、中学三年生の時に出会えたキッズドアの皆さんのおかげだと思っています。あのきっかけがなかったら、今頃私は劇団四季でアルバイトでさえもできていないし、たった2年で文化服装学院を卒業する選択肢もなかったと思います。

本当にありがとうございます。伝えきれないほど心から感謝をしています。

今後もキッズドアで一人でも多くの子達が自分の環境に負けず、夢を叶えられますように。



イメージ画像

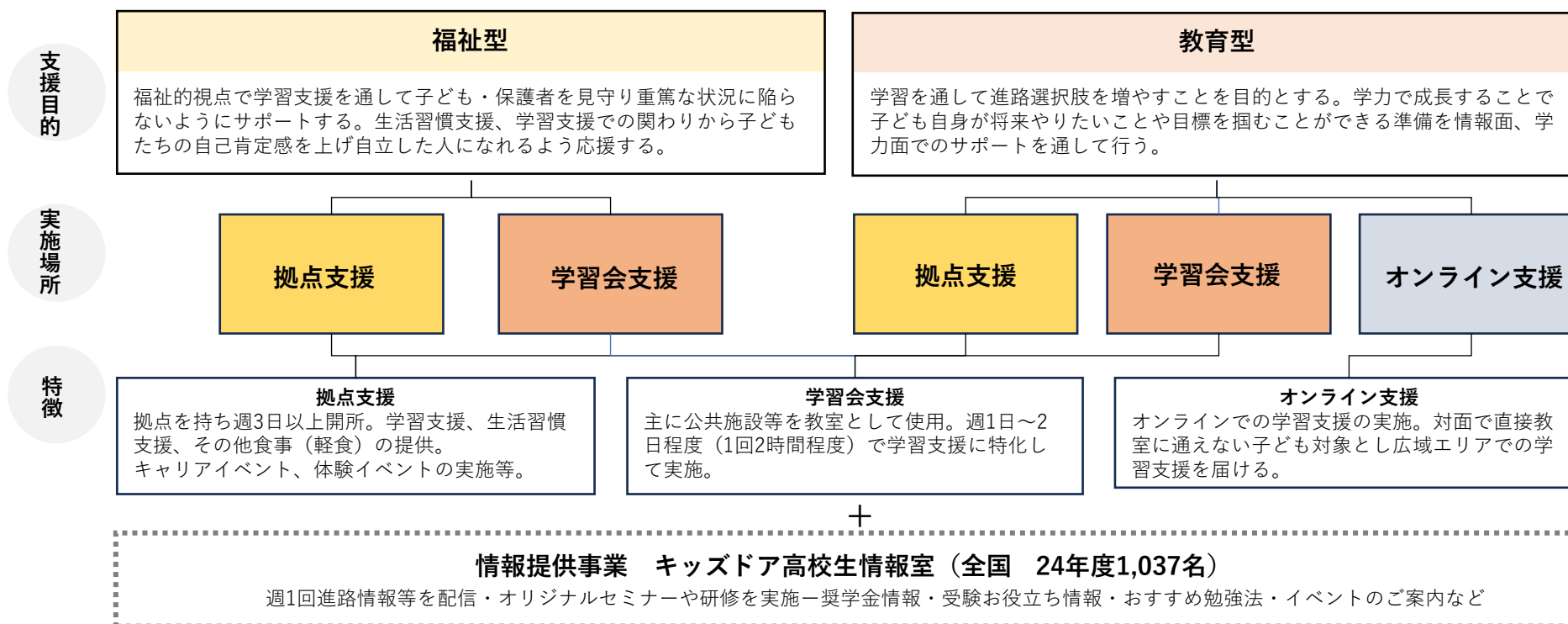
2025年8月8日に届いたメール

学習支援・居場所支援・体験活動

学習支援の類型

困窮家庭の子どもへの学習支援は、家庭や生徒の状況、利用目的などでその形態は異なります。食事提供などの生活支援や基本的な生活習慣の獲得など福祉的な支援が必要な事業（福祉型）と、学力向上や受験対策などの教育に重点を置いた事業（教育型）があります。また実施場所により、拠点支援、塾のような学習会支援、オンライン支援に分類されます。

大学・短大・専門学校への進学率は83.8%となり、国も家庭環境によらず高校生が自分の望む進路を選べるように、給付型奨学金の充実などを進めています。一方、高校生世代に対して教育型の学習支援を行なっている行政や団体は非常に少なく、キッズドアはその受け皿となるべく、2024年度も高校生世代の支援に力を入れました。



学習支援について

2024年度に実施した学習支援

福祉型の事業は厚生労働省やこども家庭庁などの補助金を活用した行政委託が多くありますが、教育型に関しては志翔学舎以外は、すべて自主事業として、企業・個人からの寄付で運営しています。教育格差の拡大が懸念される中、将来の貧困を予防し、貧困の連鎖を断ち切るためには、教育型の支援が今後ますます重要になると考えます。

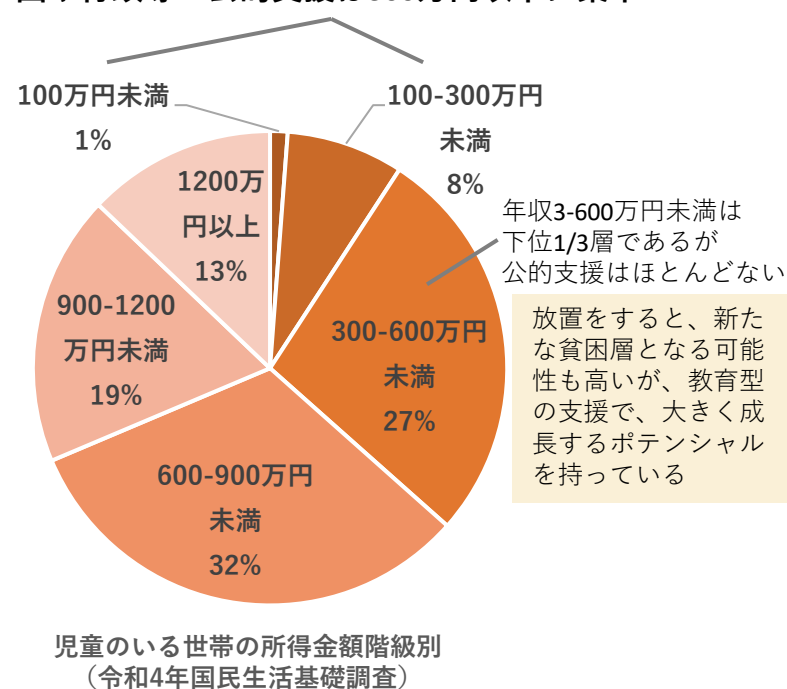
学習支援（分類） （型）		拠点支援	学習会支援	オンライン支援
福祉型	形態			
	委託	足立区西部居場所 足立区東部居場所 江戸川共育プラザ 文京区高校生世代等学習支援 中央区高校生支援 リライン リホップ リエスタ 404人	草加にこハピ学習会 中央区ステップアップスクール 中央区大江戸スクール 杉並区子どもの学習支援・居場所 板橋区中高生勉強会 世田谷区かるがもスタディールーム 目黒区学集会 港区ふらっぱー 739人	
	自主	寺子屋宝珠庵 仙台学習支援 キッズポート・たるみ LLすみだ 292人	みらい塾 KICC 77人	
教育型	委託		志翔学舎（南三陸高校・校内塾）	
	自主	KD学園医療コース 下村龍馬塾 19人	タダゼミあだち キッズドア学園中等部 キッズドア学園高等部 English Drive 南三陸町中学生支援 134人	キッズドア学園オンライン English Drive オンライン KD学園医療コースオンライン 320人

※江戸川区共育プラザ中央を除く

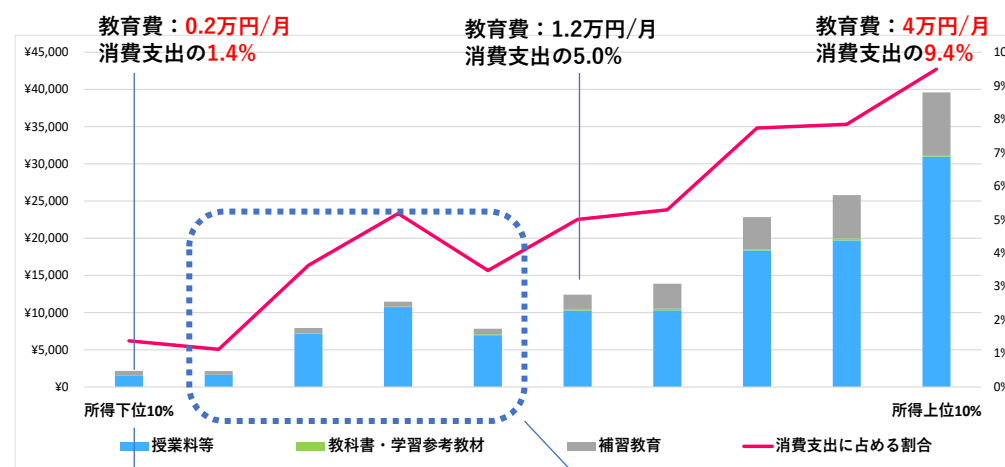
格差の拡大と新たに出現した支援が必要な層

教育型の自主事業やキャリア教育などの体験活動では、対象を年収600万円未満に拡充し、公的支援を受けられない層への支援を行いました。教育格差の拡大が進む中、貧困の連鎖を防止し、また新たな貧困層を生み出さないためにも、私たちは支援対象の拡大が重要であると考えています。公的支援が薄い部分であり、企業や個人からのご支援の拡充が重要です。

国や行政等の公的支援は300万円以下に集中



年収と教育費の実態



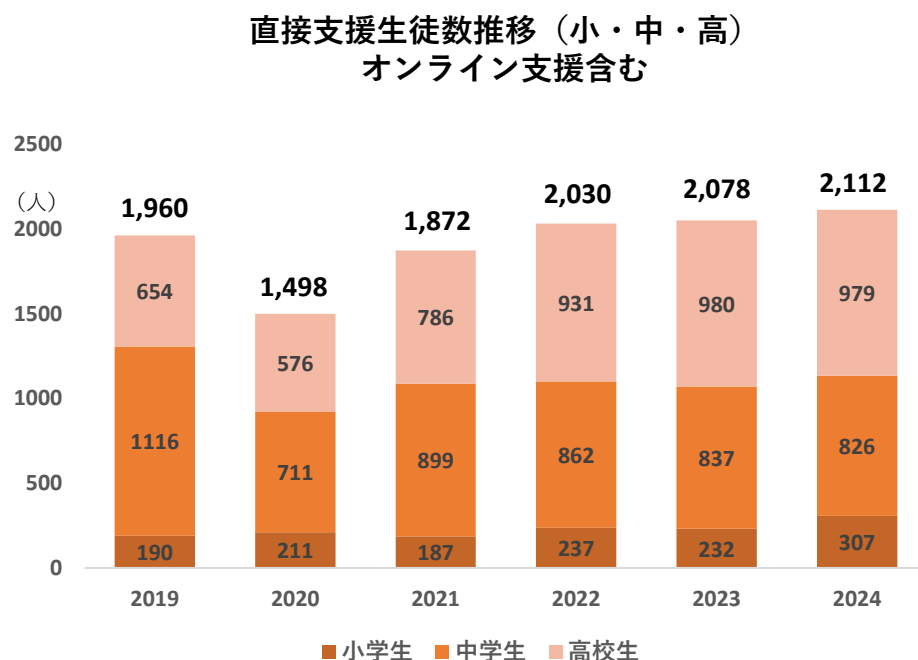
「2019年全国家計構造調査」をもとにキッズドア作成

相対的貧困層（11.5%）で公的支援の対象はここのみ。所得下位20%以上に公的支援はほぼない。

補習教育は所得下位50%までは支出が少ない。塾等の学習支援が受けづらく、格差が拡大する。

支援する子どもの人数推移

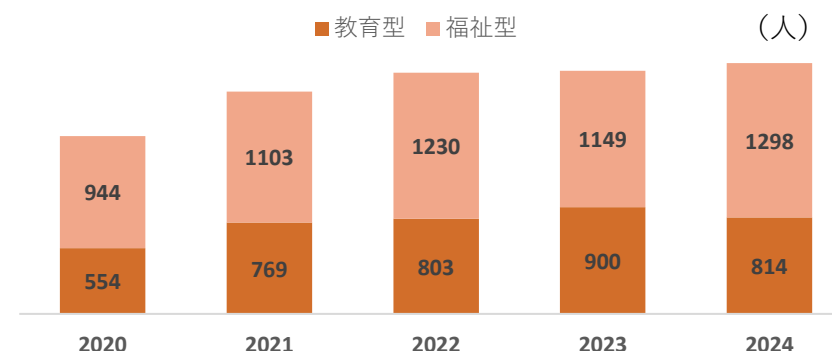
2020年度にコロナ禍により生徒数は大幅減、2021年度以降回復し2022年度からは2,000名程度で推移しています。特に高校生世代の支援を増やしています。高校生世代支援の必要性について社会の認識が高まる一方、行政ではまだまだ高校生世代対象の支援は少なく、キッズドアが全国の高校生世代支援の受け皿となっています。また教育型と福祉型の支援では、福祉型の支援は行政委託が84%（支援人数比）を占めますが、教育型は18%しかなく、寄付や助成金が主体となっています。格差が拡大する中で、教育型の支援ニーズは拡大しています。



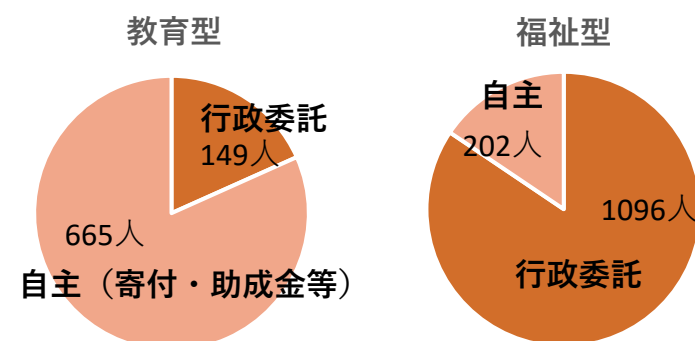
注：中高生児童館共育プラザ中央は含まれていない

高校生世代：高校生や高校中退や高校進学していない子どもなど15-20歳未満ぐらいまでの子ども

教育型・福祉型の生徒数推移



事業費の出所（2024）



学習支援の成果

高校生対象居場所型学習支援の事業例

東京都中央区から受託している中央区の高校生のための居場所型学習支援事業です。生活困窮家庭、ひとり親家庭等の児童・生徒に対して、学習支援の場を通し、継続的に当該児童・生徒の学習習慣の定着や学力向上、家庭における生活環境及び育成環境の改善を図り、家庭環境、経済的事情等に起因する貧困の連鎖を防止することで生活困窮家庭、ひとり親家庭等の福祉の向上を図ることを目的としています。

【開催曜日・時間】

水・木・金・日曜日15:00-20:00 夏休み期間中（8月）は日曜日のみ13:00-20:00

【開催時期】

2024年4月26日～2025年3月28日（12月28日-1月4日休・8月16日は台風接近のため休）

【生徒登録人数及び生徒参加状況】

登録数40人。年間の生徒の総来室人数は延べ1,382名、平均の週1以上来室率は61%、平均の定員充足率は75.7%だった。

【実施内容】

学習支援

居場所支援（相談支援・食事やリラックススペースの提供）

キャリア支援（進路相談・進路/奨学金に関する情報提供）

【学習支援方法】

学習指導：自習スペースの生徒に対してスタッフが巡回して指導

実施科目：英語、数ⅠAⅡBⅢC、国語、物理、化学、生物、地学、日本史・世界史、地理、公共、情報

教材：学校の教科書や課題、参考書、問題集、学習会で用意したプリントなど

その他：次回来室までの宿題を出す、小論文の添削、面接練習など生徒個々に合わせた指導

【高3生進路（7名）】

大学進学 6名（国公立3名 私立3名）浪人 1名

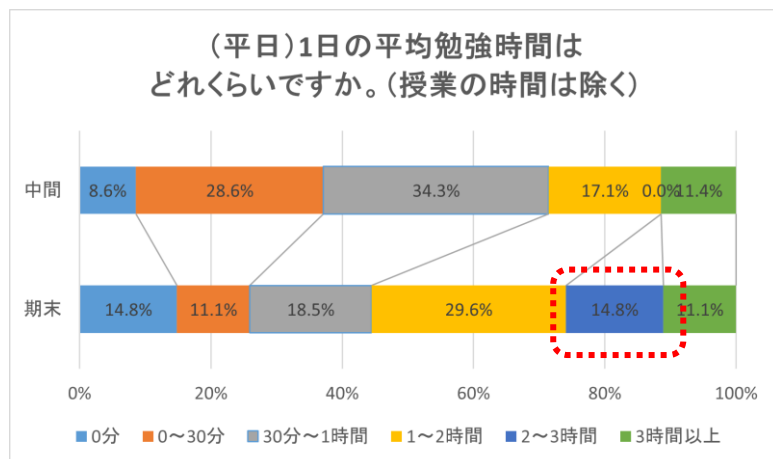


学習支援の成果

ロジックモデルアンケート

【利用後の変化 学習時間（生徒の声）】

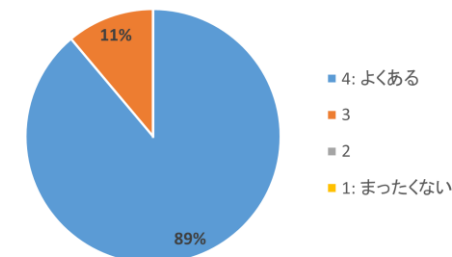
参加者の学習時間は増加の傾向が見られました。



<生徒の声>

- 学習会で教えてもらった問題を解き直したことで、全く理解できていなかった単元も、模試に向けて自分で解説を読みながら勉強できる程度まで理解度が向上したから。
- わからないところをわかるまで教えてくれるし、私自身の話も最後まで聞いてくれるため、とても居心地がいです
- 集中して学校の課題に取り組むことができました！！！！今のところ全部期限内に提出できてます！
- いろんなイベントに参加して、やったことのないことをして楽しかったから。楽しく勉強やコミュニケーションを取ることができたから。

分からないことを分かりやすく説明してもらった。

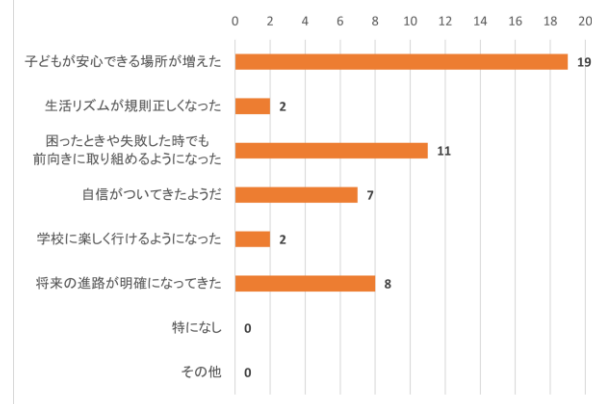


<保護者の声>

- 学習のサポートをして頂き助かった。いつでも質問出来る場所があることで、安心出来た。他では言えない、ちょっとした自慢話を聞いてもらい褒めて頂いたことで、自己肯定感が生まれた。
- 美味しいご飯をいただいたり、イベントがあったり、先生方とお話したり、もちろん勉強も特にテスト前はしっかりサポートしていただいたり、楽しく通えたと思います。



Cultivate Roomに通ってよかったことはありますか。(生活面)



教育型オンライン学習支援（高校生）の事業例

キッズドア学園高等部オンラインは2022年10月より全国の高校1～3年生に対して提供しています。

2025年5月現在全国より170名の高校生が登録し大学進学を目指しています。東京及び大都市と地方との高等教育への進学格差が大きく、特に地方の経済的困難な状況にある高校生世代が塾や予備校に頼らずに進学を目指すことは困難です。キッズドアが長く高校生世代へ進学に対する直接支援を行ってきたノウハウをオンラインで全国へ届けることで地方の進学を目指す高校生世代への選択肢を広げることが可能となります。

認定NPO法人キッズドア基金によるゴールドマンサックス給付型奨学金受給者へのアンケート調査から見る
日本全国の困窮家庭の大学受験の困難と対応する支援

経済的苦境の進学への影響

- － 9割超が受験費用について保護者に気を遣っている
- － 経済的理由により52%が「受験する校数を減らした」
- － 37%が「予備校・塾に通えなかった」
- － 31%が「受験・進学を諦めようと考えたことがある」

受験・進学を諦めようと考えた理由

- － 約9割が「入学金や学費を用意できるか不安になった」
- － 半数強が「受験料を用意できるか不安になった」

受験期間に欲しかった支援

- － 金銭的な支援（“受験料が高く交通費などかかるので、受験料の補助があるといい”）
- － 受験のための環境・場所の確保（“参考書や問題集を貸して欲しかった”）
- － 入学金支払いの期限延長に関する支援（入学金と前期受講料を合格発表後すぐに支払う必要があり、母親に借金してもらって支払った、など）

今後実施して欲しい受験関連支援（選択率が高い順）

- － 受験料の免除
- － ひとり親家庭への支援
- － 給付型奨学金の対象者拡大・増額

進路に対応したオンライン上の学習環境の提供

進路を伴走サポートする人の提供

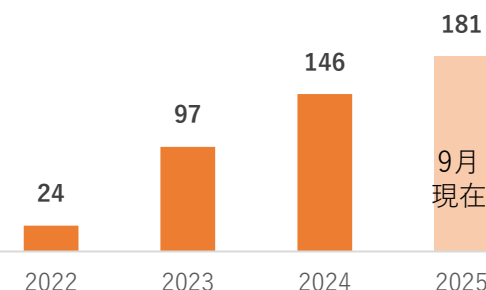
進路に対する情報の提供

給付型奨学金の提供

進路に対応したオンラインでの学習環境の提供
※オンライン自習室

教育資金に関する情報の提供

キッズドア学園参加生徒数（人）

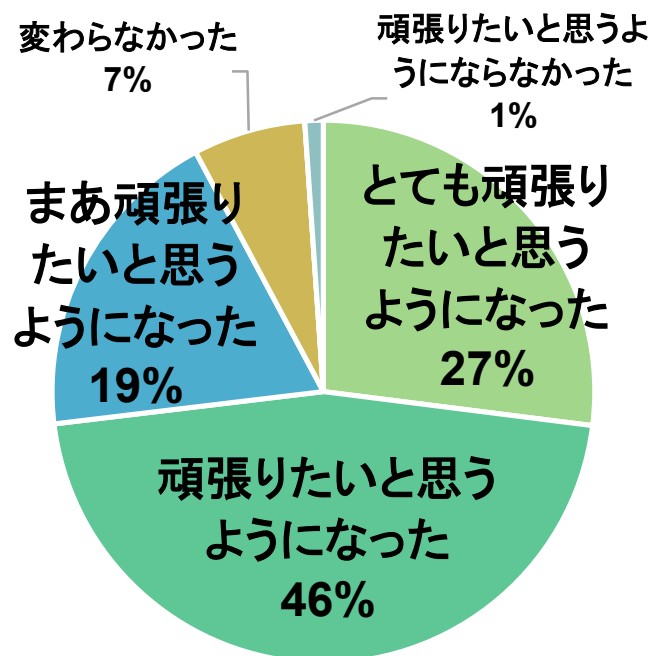


オンライン学習支援事業内容

- 月2回の個別セッション
- 月1回の集合型セミナー
- 週6日開講オンライン自習室
※自習室には専任チューターを配置し、その場で勉強内容の困りごとの質問対応も行っています
- 週6日のLINEによる質問対応
- オンラインワークショップ
- オフラインでの進路合宿@東京
※オフラインによる体験活動の提供

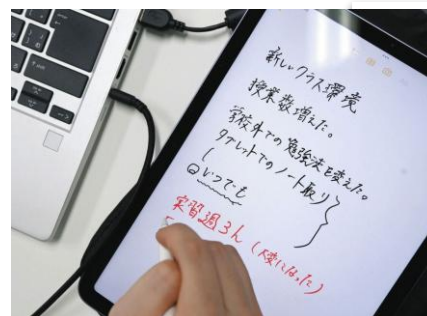
学習支援の成果

キッズドア学園オンライン 「勉強への意欲の変化」



いつもお世話になってます！何か分からない事があれば2週間に1回必ず聞ける機会があるので心強いです。
もうすぐ大学入試ですが入試の面接やレポート等細かく教えてもらって学校の担任よりも頼りになります！

色々な勉強方法や受験についてのセミナーをしてくださったり、セッションではいつもたくさん話を聞いてくれて、自分にあった勉強法を考えてくれたりテストや普段の勉強での目標を一緒に考えてくださりありがとうございます！これからもよろしくお願いします！



受験生対象夏休み進路合宿




大学等進学実績

私たちは「誰もが大学にいかなければならない」「少しでも偏差値の高い大学に合格した方がいい」というような考えはありません。

一方、子どもたちが「この大学に行きたい」「この学部で学びたい」という夢があるのなら、それを力一杯応援します。

大学受験制度は近年大きく変わり、総合型選抜、学校推薦型選抜での進学者が全体でも50%を超えました。グローバルやデータサイエンスを意識した学部の統廃合、女子の理系進学支援、さらに奨学金の賢い利用の仕方など、学力以外の支援の有無が合否に大きく影響します。家庭ではそこまでフォローできない、そもそも保護者が非大卒で大学のことがわからない、しかし塾や予備校に行けない環境の子どもたちにとって、大学進学の夢を応援し受験を伴走してくれる支援が必要です。

2024年度


進路実績
速報

国立大医学部医学科
東北大学医学部
防衛医科大学医学部
2名合格

国公立大学総計
25名合格
東京大学 東北大学
千葉大学
東京科学大学
神戸大学 広島大学他

◆医学部医学科：2名 ◆歯学科：1名
◆薬学科：4名 ◆医療・看護学科：6名
◆理系学科：5名 ◆文系学科：6名
◆美術学科：2名

防衛大学校、東京都立大学、山形大学、岡山大学、
金沢大学、茨城大学、都留文科大学、大阪教育大学、
高知大学、琉球大学、東京芸術大学（2）他

※2025年3月31日判明分
※各合格者数計は、延べ人数です

2024年度キッズドア高校生学習会卒業生進路

私立大学合格 154名

◆早慶上理：4名 ◆4工大：3名
早稲田（1）上智（1） 芝浦工業（2）工学院（1）
東京理科（2）
◆GMARCH：7名 ◆茶津本東：2名
明治（2）青山（2）立教（1） 津田塾（1）日本女子（1）
中央（2）法政（1） ◆関関同立：2名
関西学院（1）同志社（1）
◆成成明学：3名
成城（2）明治学院（1）
◆日東駒専：11名
日本（6）東洋（2）
駒沢（1）専修（2）

※私立大学掲載一部のみ

短期大学合格 5名

専門学校合格 24名

その他学校合格 2名
※海外大学、フィールド施設研修校

※2025年3月31日判明分 ※各合格者数計は、延べ人数です

情報支援・キッズドア高校生情報室

経済的に厳しい環境に置かれている多様な進路を目指す全国の高校生世代へ向けて毎週1回（通年）で進学に対してLINEで様々な情報支援を行っています。日本はもちろん、世界からでもLINEに登録するだけで、中～低所得の高校生世代への進学に関わる情報を無料で受けられます。毎年1000人程度の登録があり、受験勉強のペースが作れた、奨学金や無料で参加できる良質な体験活動の情報が得られたと、生徒からは好評です。今後は、システムを整え、登録数を増やしていきます。

給付型奨学金情報



進学情報セミナー



模試活用法



- ・ 経済的に厳しいご家庭への高校生世代への進学に関わる情報支援
- ・ オンラインによる進学セミナー、奨学金セミナー（民間、JASSO奨学金）等
- ・ 多様な進路に備える『進路Guide』のご提供等
- ・ 奨学金セミナーは日本学生支援機構様とコラボ開催、民間奨学金セミナーも有識者とのコラボによる開催

居場所支援の成果

福祉型拠点支援の事業例

東京都足立区「居場所を兼ねた学習支援事業」受託

居場所の運営で、キッズドアが大事にしていることは「そこに来ることが、子どもたちの成長につながっているか」という点です。安全で安心できる居場所はもちろんですが、それに加えて、勉強をすることを大事にしています。丁寧に寄り添って教えることで、勉強嫌いを勉強好きに変えていく、そんな努力をしています。

キッズリビング

(生活困窮世帯の中高生の居場所型学習支援)



対象 生活困窮世帯（生活保護、就学援助受給世帯等）
の中学生～高校生
※高校生は中学生時代の利用者のみ

定員 中学生：60名 高校生：30名

開催 火曜日～日曜日 ※年末年始除く

支援内容 学習支援、居場所支援、食事支援
体験活動、家庭支援、他機関連携



利用者の状況

2025年3月31日時点

開所日数：307日 来所人数：6,967名（延べ）

キッズリビング A拠点

中学生 60名 高校生 31名



キッズリビング B拠点

中学生 60名 高校生 30名



居場所支援の成果

子どもへの4軸支援

学習支援



定期テスト対策、受験対策
戻り学習、学習習慣等

居場所支援



同世代や大学生との交流
エアコンのある安心安全な環境

体験活動



定期テスト対策、受験対策
戻り学習、学習習慣等

生活支援



手作りの食事・食品や文具の提供
生活習慣等



文化的資本の充足

明るくて綺麗な環境
本やコミック
ソファ・PC



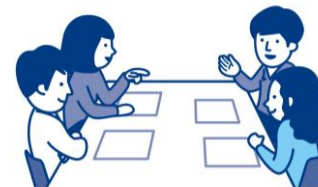
社会関係資本の充足

スタッフや
ボランティア



保護者の孤立予防

3者面談
子育てに困った時
の相談先



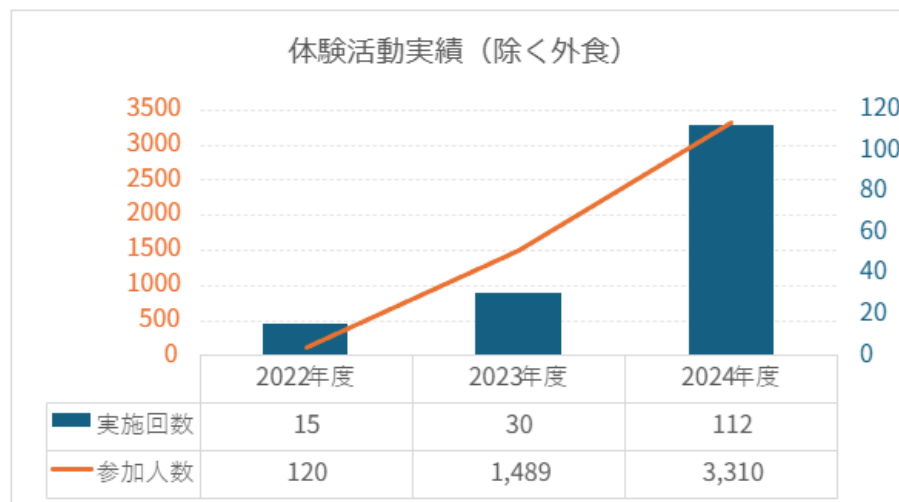
公的支援とのコネクト

行政担当者や学校
との連携

体験活動について

体験格差とキッズドアの体験活動

キッズドアは、企業・団体・個人の多くの方々からのご協力をいただき、子どもたち向けに様々な体験活動を行っています。その種類は、スポーツやコンサートの他、オフィスツアー、プログラミング教室など、多岐にわたります。体験活動は、非認知能力（意欲、協調性、自己肯定感、粘り強さ等）の発達に効果があることが実証されていますが、困窮家庭では余裕がないため、体験活動の機会が限られています。2024年度は100を超える体験活動を実施、3,000人を超える子どもたちが参加しました。



【ジャンル別体験活動例】

1. 学習体験	micro:bitでプログラミングに挑戦
	Lenovo 夏休みワークショップ
2. 自然体験	熱海ビーチクリーン体験・バスツアー
	石坂産業・里山体験バスツアー
3. 文化的体験	夏だ！祭りだ！！N響ほっとコンサート
	舞台「ハリーポッター」
	TOHOシネマプリペイドプレゼント
4. スポーツ体験	エジミウソン無料サッカー教室
	Jリーグ（横浜Fマリノス vs ジュビロ磐田）
	東京ドーム巨人戦
	TOKYO UNITE マルチスポーツアカデミー体験会
5. 社会体験	サノフィオフィスツアー
	明治安田生命・金融教育&明治生命館見学ツアー



学び多きツアーをありがとうございました！ひとり親だとなかなかアウトドアを経験させること自体のハードルが高いため、きっと子どもの中で一生残る思い出になったと思います。子ども同士が仲良くなって和気あいあいとしているのも嬉しい光景でした！



熱海には初めて行ったので、とても楽しかったと子どもが喜んでいました。海に行ける機会もなかなかないので、子どもが海に入って楽しんでいる姿が見れてとても嬉しかったです。久しぶりにリフレッシュできてとても良い休日の思い出となりました。

体験活動について

自然体験



熱海ビーチクリーン体験バスツアー

自然体験



里山体験バスツアー

学習体験



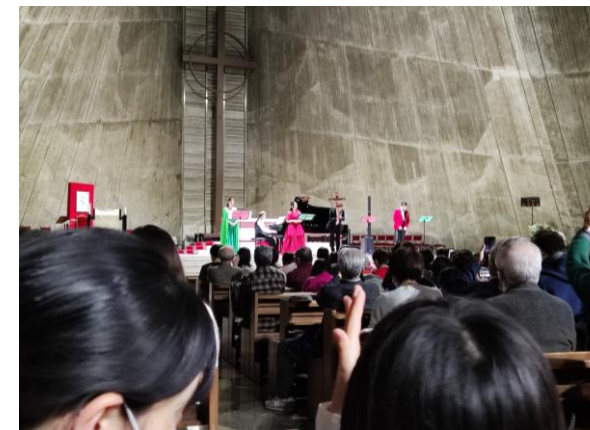
micro:bitプログラミング教室

社会体験



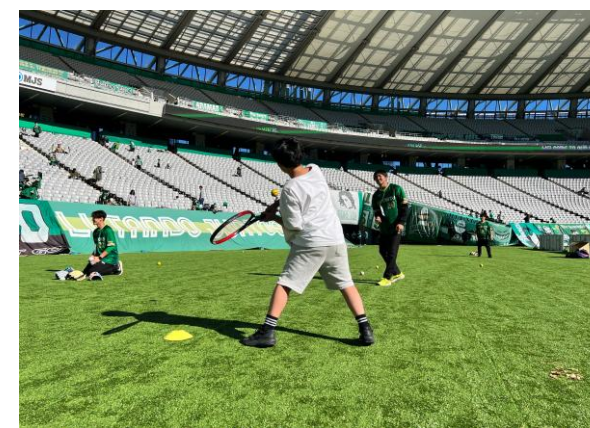
I-neヘアアレンジ・ワークショップ

文化体験



HOPEWITH コンサート

スポーツ体験



東京ベルディ マルチスポーツ体験

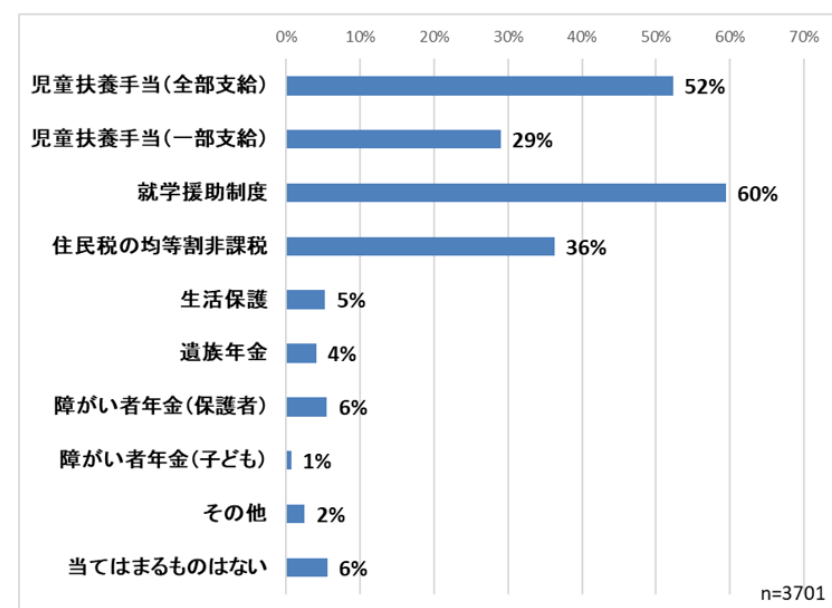
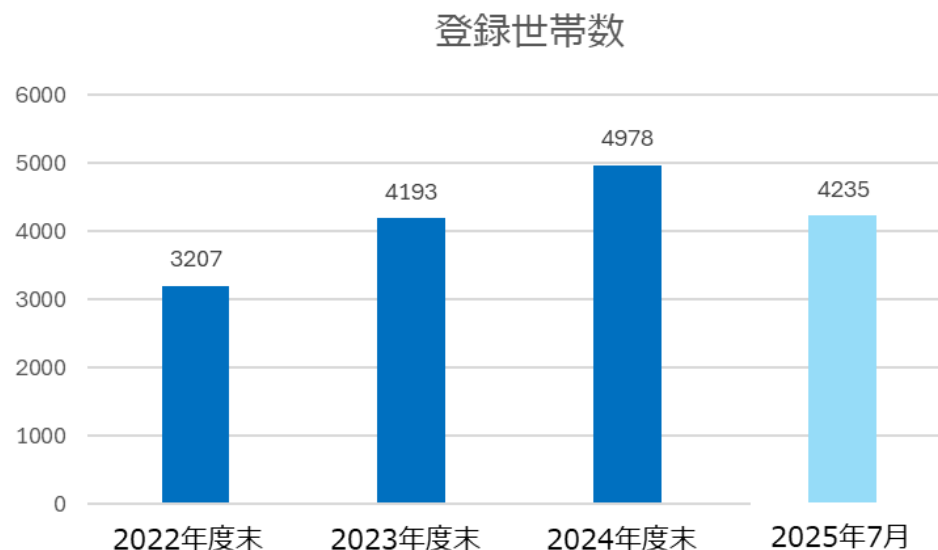
世帯支援：ファミリーサポート

日本全国の困窮子育て家庭5000世帯のデータベース

キッズドア・ファミリーサポートは2020年にコロナという災害に対する緊急支援という形で発足しました。現在では、困窮子育て家庭の保護者を対象に、困窮から抜け出すための物資・情報・体験活動・就労の支援を行っています。2024年度は延べ826,682人への支援を行いました。

ファミリーサポートの事業には4つの柱があります。一つ目は、食料支援をはじめとした物資支援です。二つ目は、情報支援です。子育て世帯向けの家計支援の情報や行政や他のNPO法人等からの支援情報を選択し、わかりやすくかみ砕き、LINEによるプッシュ型の伝達方法で提供しています。三つ目は体験活動です。企業や団体のサポートにより、スポーツイベントや自然体験、映画や演劇などの無料招待を提供してきました。四つ目は、就労支援です。コロナで大きな問題となった女性の失業や低賃金の問題に取り組むべく、スキルアップによる転職支援等を実施してきました。

キッズドア・ファミリーサポート 公式HP：<https://kidsdoor-family-support.jp/index.html>

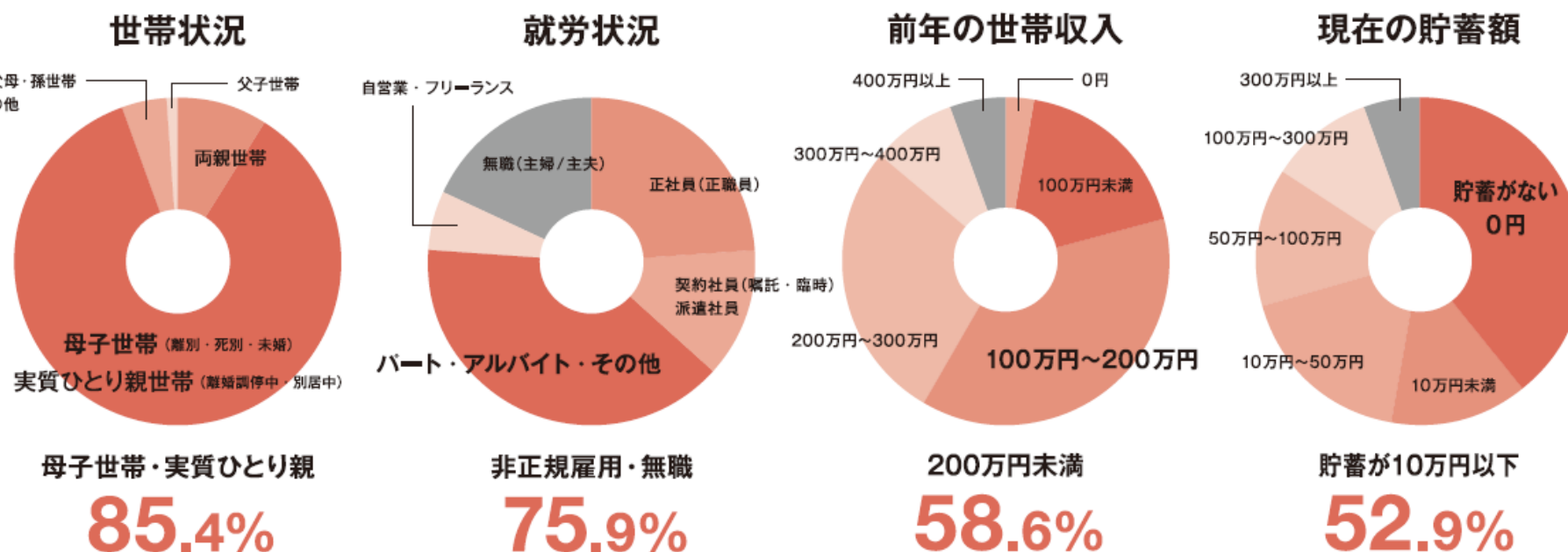


登録世帯の状況

キッズドア・ファミリーサポートに登録している世帯は、全国に広く分布しており、約9割が母子世帯です。登録者の年代は40歳代が最も多く、次いで30歳代、50歳代となっています。居住地は南関東が最多で、住居は民間賃貸住宅が多く、都営・区営住宅も一定数存在します。経済状況については、世帯所得が300万円未満の世帯が約9割を占め、特に100万円以上200万円未満が最多です。貯蓄がない世帯は約4割、借入がある世帯も同様に約4割で、カードローンや自動車ローン、親族からの借入が多く見られます。児童扶養手当や就学援助制度の利用率も高く、生活保護受給世帯も一定数存在します。

精神的な側面では、調査で約9割が何らかの精神的問題を抱えている可能性があり、孤独感を感じている世帯も8割を超えているなど、支援の必要性が強く示されています。

支援のニーズとしては、食料や物資支援、給付金・奨学金、行政支援情報、子どもの教育支援などが挙げられ、情報入手の困難さも課題となっています。キッズドアの学習会や居場所の利用率は低く、無料の学習会や居場所事業をより拡充し、こうした家庭へ届ける必要があります。

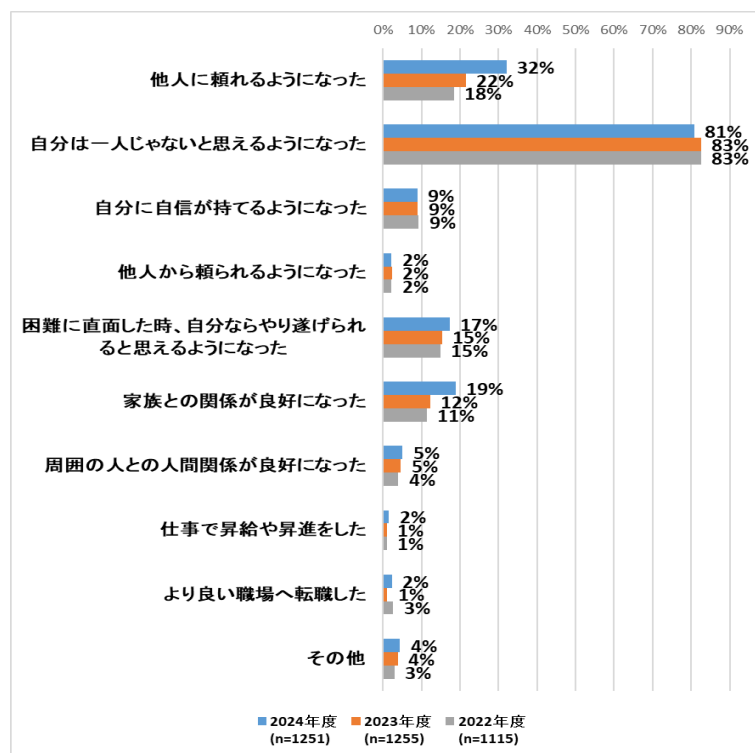


ファミリーサポートについて

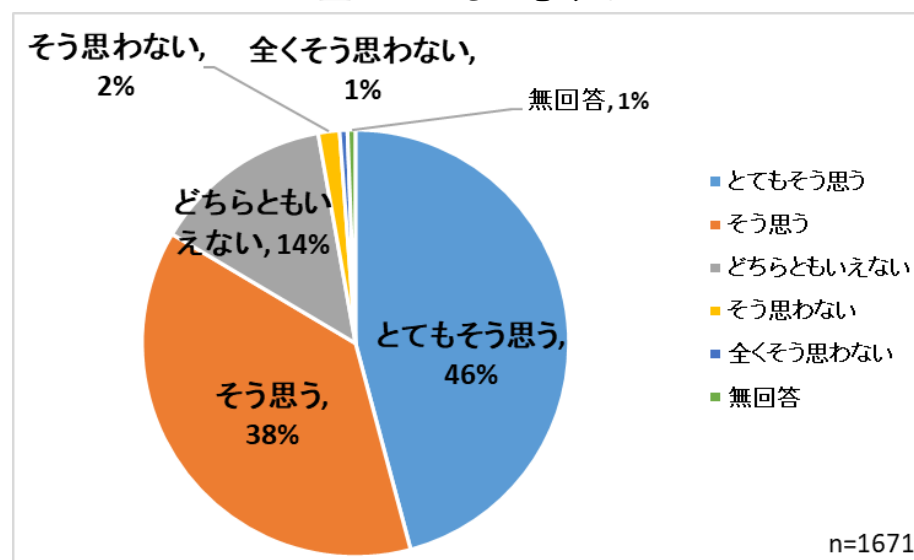
ファミリーサポートの効果

ファミリーサポートに登録者に2025年3月に実施したアンケートでは、ファミリーサポートに登録して良かったと回答した割合は9割超でした。ファミリーサポートに登録してから、良い変化があったかを尋ねたところ、約8割が好意的な回答をしており、8割超が「自分は一人じゃないと思えるようになった」と回答し、他人に頼れるようになった」、「家族との関係が良好になった」が続きました。ファミリーサポートの受益者へのアンケートに基づく情報発信や政策提言は、子どもや子育て家庭の生活の改善に役に立っていると思うと回答した割合は8割を、声を上げづらい方々の声を聞く場ともなっています。登録者数は増加の一途を辿っており、支援の継続と拡充が求められます。

ファミリーサポート登録後の変化



ファミリーサポートへのアンケートに基づく情報発信や政策提言は、子どもや子育て家庭の生活の改善に役に立っていると思うか



2024年度キッズドア・ファミリーサポート利用者への満足度調査
 調査期間：2025年3月15日～2025年3月31日
 回答件数：1671件（回答割合33.8%）

ファミリーサポートについて



- 支援物資で助かるのはもちろんですが、息子とニコニコしながら今回はこんなの入ってる～！って話出来る時間、お米を食べれる幸せ、本当に感謝してもしきれない程の支援を受けてると思ってます。ありがとうございます！
- 支援内容など、知らなければ受けられないものもあり、情報をいただけることがどれだけ心強いことわかりました。
- ファミリーサポートに登録して、色々援助して頂いて大変助かりました。政府にも直接支援の必要性について提言などで改善されて母子家庭にとってはありがたいと思いました。
- 生活が苦しいので少しでも情報を得たいし、実態の声を政府に届けていただける場でもあり、法案の改正に繋がって欲しいので、良い場だと思ってます。

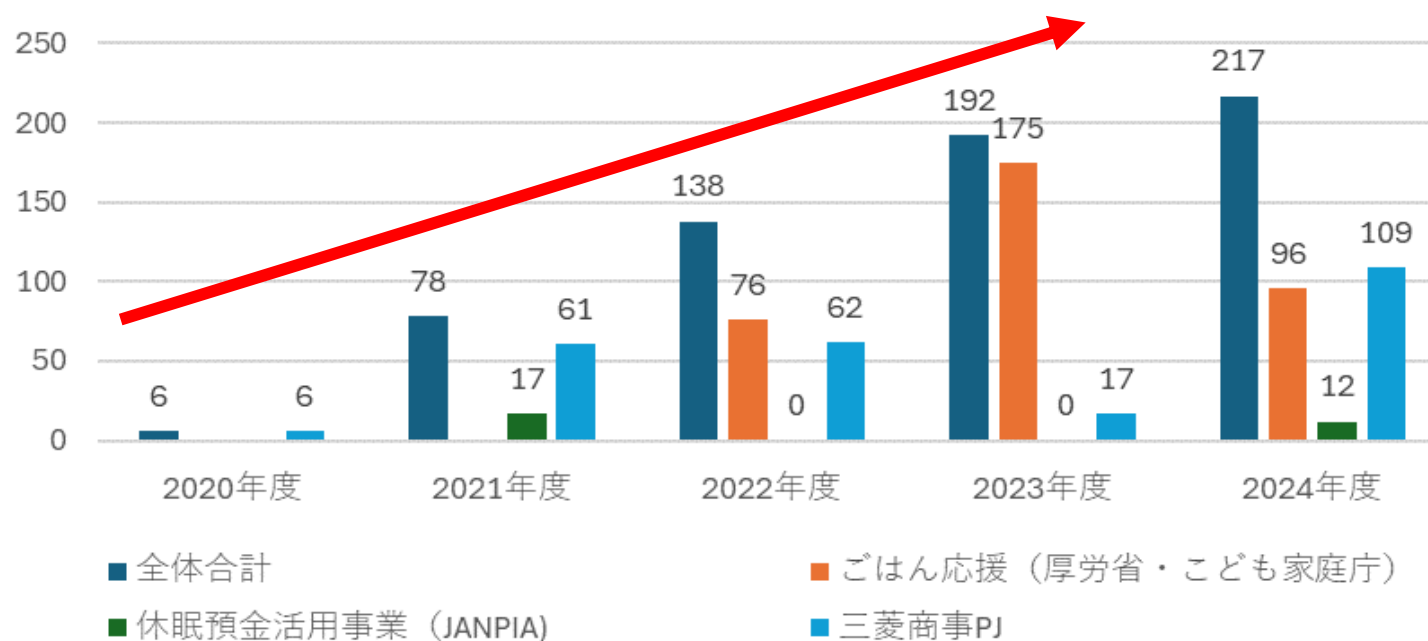
中間支援：全国プラットフォーム

中間支援について

中間支援事業で全国の子ども支援団体をサポート

私たちは、日本暮らすすべての子どもが夢や希望を持てるようになることを目指しています。そのためには、オンライン学習支援やファミリーサポートに加えて、地域で活動する団体をサポートすることが重要だと考えています。スタートアップ支援、スキルアップ支援、さらに、こども家庭庁や休眠預金を活用した補助事業・助成金事業に選んでいただき、活動資金を分配する事業にも取り組んでいます。

中間支援団体数推移



注：ごはん応援は2024年度の第2次補正分含まず

中間支援について

日本全国の子ども支援団体へのスキルアップ事業

2020年より開始した学習支援者 スキルアップ 事業は、43都道府県213団体が参加しています。キッズドアが長年蓄積してきたノウハウを全国の団体の皆様へお伝えしています。熱心に活動されている現地の皆様を様々な研修やLINE相談などで支援をしています。地方では、子どもの数も少なく、子ども支援団体も周囲に無い中で、みなさん頑張っています。キッズドアの事業に参加することで、子ども支援に取り組む仲間づくりや、地域の課題の共有や、それを解決するための相互支援などにも繋がっています。



一般社団法人チャイルドチア道南いーとの家（北海道函館市）

北海道で第三の居場所を開いていたがパートナー企業からの活動資金打ち切りで継続が困難に。現地で開催したキッズドア主催のイベントでこの状況を伝えることで個人の方からの資金提供のお話があり、団体を再建。



NPO法人まものて（宮城県宮崎市）

キッズドアの研修でボランティア行動規範ガイドブックをもらったことがきっかけで、活動8年目にしようやく、わかりやすいボランティア研修ができた。その結果学生ボランティアの活動の範囲も広がり、行政へのアピールになっている。

困窮子育て家庭の食支援「ごはん応援プロジェクト」

こども家庭庁「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」

キッズドアの「ごはん応援プロジェクト」は、ひとり親家庭など支援が必要な世帯の子どもたちに「食」を通じた支援を届ける取り組みです。こども食堂やフードパントリーなどを運営する団体に対し、最大300万円の助成金を提供し、活動資金を支援しています。本事業はこども家庭庁の助成事業の一環として、キッズドアが中間支援団体として実施しており、全国の団体と連携しながら、子どもの貧困や孤立の解消を目指しています。

延べ238,200人への食事支援を実施

※アンケートの回答をもとに算出

採択団体数 96団体

助成金額合計 216,802,000円

実施地域 34都道府県



実行団体の声

子ども食堂ができていなかった地域で子ども食堂を開催することができた。子ども食堂というのを知ってもらうことができた。地域の子どもが集まり、お手伝いで地域の大人が集まり、とてもよい機会をもつことができた。

この助成金のお陰で、どれだけの子どもたちに笑顔を届けることができたか。本当に、ありがとうございました。これからも、子どもたちの為に、我々の出来ることを精一杯やっていこうと思います。

食事支援を利用した家庭の声

お米を届けて頂いた時、本当に本当にお金も無く、お米も前日食べてしまい何も無い状態でした。生きていっていいんだ。と涙が出ました。ありがとうございました。

以前は、1人で大変でしたが、子供食堂やパントリーを通して、コミュニケーションとれた事により、いろんなひとり親の人達とお話する機会も増えて凄く良い機会です。孤独だと思っていたのにひとり親の方とコミュニケーションもとれて、勇気が持てました。本当に感謝しています。

高校生世代の子育て家庭「くらしと学びの危機」緊急支援

物価高騰で苦しい高校生世代を支援する団体を支える

本事業は、物価高騰やコロナ禍の影響を受け、生活や学びに困難を抱える高校生世代（16～20歳程度）を主な対象とした緊急支援事業です。全国12の実行団体に対し、生活支援、学習支援、居場所・相談支援、キャリア教育支援などを包括的に提供しました。特に地方の団体にとっては、本事業が活動の大きな後押しとなり、支援の輪が広がりました。

実行団体には、集合研修や事例共有会を通じて支援の質を高める機会を提供し、情報共有も行いました。その結果、団体間のネットワークが強化され、支援の継続や地域連携の基盤が整いました。また、受益者アンケートでは、支援を受けた高校生の多くが進路や将来に前向きな姿勢を取り戻したことが確認されました。

本事業を通じて、キッズドアは資金分配団体としての運営力を高め、単独での事業実施が可能な体制を整えました。READYFORとの連携により、伴走支援や経費精算のノウハウも共有され、両団体のケイパビリティ向上が図られました。その結果、「困難を抱えた高校生世代のセーフティネット構築事業（休眠預金事業2024年度通常枠第2回）」に採択され、2025年度から全国4団体への活動資金提供と伴走支援を行なっています。



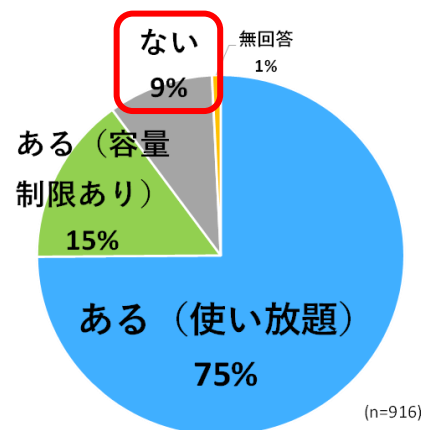
デジタル格差解消

デジタル格差とは

新しい社会課題・デジタル格差

家庭の経済状況は、子どもたちがデジタル技術に触れ、関心を持つ機会にも影響します。最近では、文部科学省の「GIGAスクール構想」により、学校から貸し出されるPCやタブレット端末を授業や宿題で利用する機会も増えています。一見すると、すべての子どもたちに平等なデジタル環境が整備されているようですが、学校から貸与される端末には、自宅に持ち帰ることができない、自由に使うことができない、性能が十分でないといったことが少なくありません。さらに、経済的な苦しさを抱える家庭では、子どもが自由に使えるPCがないことや、インターネットを利用できないことも多くあります。デジタル化が急速に進む中、学校の授業や宿題でもPCやインターネットが必要不可欠になっているにも関わらず、子どもが学ぶためのデジタル環境が十分でない家庭が多く存在しています。その結果、デジタル環境によって子どものデジタルリテラシーに大きな差が生まれ、将来の進路選択や働き方にも影響していく可能性があるのです。

困窮子育て家庭の インターネット回線の有無



オンライン授業を受けるためのパソコンがない。スマホも最近ようやく購入した。

学校のタブレットが高額で購入出来ず、貸与している。国語などの辞書も購入し、ダウンロードしてタブレットに入れるシステムだか、高額で購入出来ず、ひとりだけ兄が使っていた紙の辞書を使用している。

子どもはプログラミングが大好きでメタバースの作品づくりをしたがっています。経済的にPCを用意できないためせっかくの意欲を持て余しています。学校のタブレットは禁止事項が多く、ほとんど役にたっていません。

*キッズドア「オンライン居場所に関する意識調査」
 (対象：キッズドア・ファミリーサポート登録世帯の保護者 (n=916) 期間：2023年9月25日～10月10日)

環境整備

パソコンの無償配布による環境整備

デジタル格差の解消に向けて、企業と連携して、子どもたちにPCを配布する取り組みを進めています。2024年度は、企業から400台超の寄贈があり、約200台を全国の中学3年生、高校3年生を中心に配布しました。

さらに、企業からNPOへの物品寄付手続きを現在よりも簡略化することで、PCの寄付を促進し、より多くの子どもたちにリユースPCが届く持続可能な仕組みづくりを目指して、政策提言も継続して行なっています。

SMFLレンタル株式会社からのPC320台寄贈(2024年～2025年当レポート作成時)

寄贈されたPCは、能登半島地震で被災した高校生や大学生のいる家庭、キッズドアの学習会等の小中高生など、必要としている子どもたちに送りました。



この春から高校1年生になります。高校ではパソコンが必要なので、貸与していただけてとても嬉しいです。何より、きれいで高性能なパソコンを新学期から使えるのが楽しみです。大切に使いながら、勉強をがんばりたいと思います。

とても嬉しいです！箱を開けてまさかパソコンが入っているとは思わなかったの、思わず叫んでしまいました！パソコン部としてスキルを学んできましたが、卒業して学校のパソコンは返却しないといけなかったのとても悲しかったです。でもまさか私専用のパソコンが来るとは！！これからたくさん勉強がんばります。3年間大事に大事に使います。本当に嬉しかったです！ありがとうございます！

高校生になって宿題と課題がネット配信されているのですがパソコンがないので母のスマホでネット配信される宿題をやっていました。画面が小さくてすごく見づかったです。それがこれからパソコンで見れると思うとすごく嬉しいです。4月から本格的に機械科の勉強と資格の試験がどんどん始まるのでパソコンを使って勉強したいと思います。

困難を抱える女子高校生対象IT&デザインプログラム「IFUTO」

理系女子が少ないことが社会課題となる中、困窮家庭の女子高校生を対象にIT格差を解消し未来を開くためのプログラム「IFUTO」を展開しています。2024年度は、千葉大学、一般財団法人三菱みらい育成財団、一般社団法人プロジェクト希望の協力・協賛のもと、東京と仙台の2か所で開催。95名が参加し、Tシャツのデザインやメタバースに取り組みました。



「IFUTO」の中には「if」と「IT」という文字が隠れています。

「もしITやデザイン、マーケティングの力があれば、子どもたちの可能性はさらにひろがる」

IFUTOは、そんな「もし」のきっかけつくるプログラム。

デザインコース

プロダクトコース

メタバースコース

STEP1

自宅で
事前準備

STEP2

デザインセッション

全4日間でテーマに沿ったオリジナルのTシャツをデザイン

マーケティングについてのキャリアトーク

STEP3

プロダクトセッション

オリジナルTシャツを実際にプリントし販売会を開催

STEP3

メタバースセッション

メタバース空間にオリジナルTシャツを着たアバターと部屋を作成し、メタバース空間でファッションショーを開催



ChatGPTと会話するプログラミング講座

2024年度は、夏休み期間を利用し、キッズドアの学習会に通う高校生を対象としたプログラミング講座を全8回（各回3時間）開催、延べ120名が参加しました。デジタル化が急速に進む社会を生きる子どもたちが、ITに関心を抱き、IT関連の職種を将来の選択肢の一つとして考えられるようサポートすることを目指しました。

また、講座に参加して芽生えたITへの興味が継続して育んでもらえるよう、全日程を修了した参加者には講座で使用したPCもプレゼントしました。

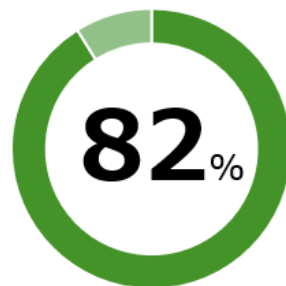
プログラミングやIT、情報系の
仕事に興味広がった



ありがとうございました。最初は自分にはプログラミングなどできないと思い込んでいたのですが、先生が丁寧に教えていただき、できるようになりました。

プログラミングはとても複雑で難しいものですが、受講して基礎が身につく、少しずつプログラミングへの興味が湧いてきました！

将来の学部選び等での
選択肢が広がった

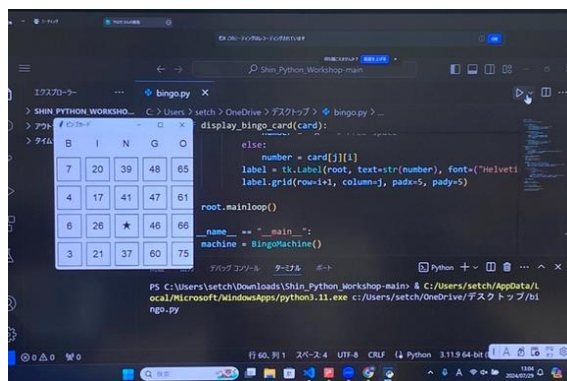


このたびは素敵な機会をありがとうございました。私は文系で、普段パソコンに触る機会もあまりなかったため、今回の講座で新しい経験ができて良かったです。

YouTubeをつくるという課題で、いつも何となくみているサービスが沢山の過程を経てできたものであることを知りました。

また、このことから、私たちが日常的につかっている様々なサービスや機械も、YouTubeのように複雑なプログラムからなっているのではないかと思います、そちらにも興味が湧いてきました。

頂いたパソコンは、日常生活に潜むプログラムを調べたり、それらがより便利になるための方法を考えるのに使わせていただこうと思います。

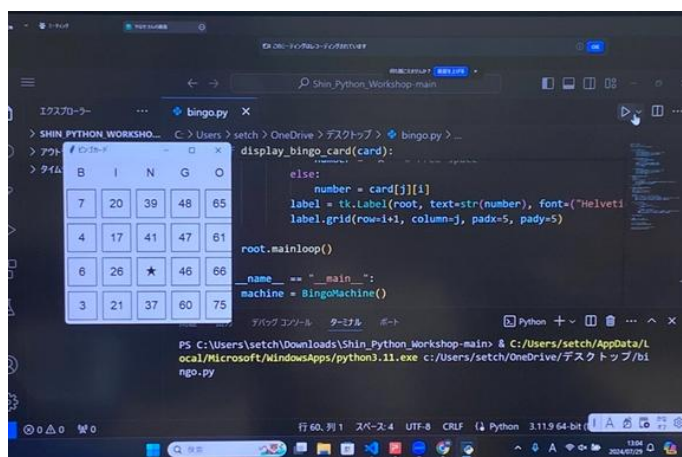


IT教育支援

ベーシックコース

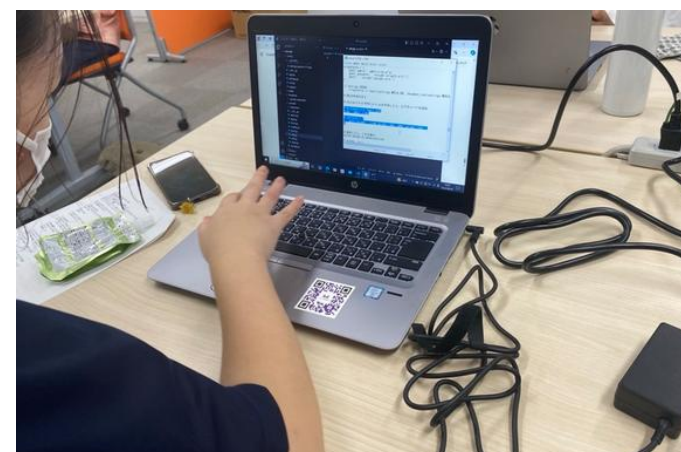
目標は、要件定義を理解し、Chat Gptを使ってコードを作成して、簡単なアプリを制作できるようになること。

参加した子どもたちは、Chat Gptを活用するとコードが書けることに衝撃を受ける、完成したアプリに「完璧！」と喜ぶなど、講座を楽しんでいました。



アドバンスコース

目標は、Pythonの基礎を理解し、Chat Gptを使ってコードを作成し、YouTubeコードを作成して、実際に動画をUPすること。より難易度の高いチャレンジですが、YouTubeのプログラムコードを理解し、エラーにも対応しながら取り組み、動画のUPに成功すると思わず拍手が出る参加者もいました。



アドボカシー・ロビイング

制度改革ですべての子どもを応援する

子どもや子育て家庭を取り巻く課題の解決には、日本中のすべての人々に、この課題を「自分ごと」として捉えてもらうことが必要です。キッズドアでは、貧困や教育格差をはじめ、今起こっている子どもや子育て家庭の危機を社会に伝えるべく、調査研究や政策提言といった活動を行っています。

調査研究

- 困窮子育て家庭の保護者や子どもを対象に、生活、教育、保護者の就労等の様々なテーマでアンケート調査を実施しています。
- 2024年度は、物価高騰下での生活実態や大学等受験における課題についてアンケート調査を実施するとともに、子育て家庭を3年間にわたって追跡するパネル調査の取組を開始しました。
- 調査報告はキッズドアのウェブサイトで確認できます。

https://kidsdoor.net/report_list.html



政策提言

- 支援活動や調査研究で明らかとなった子どもや保護者の様子を伝え、法律や制度の改善を目指しています。
- 理事長渡辺はこども家庭庁や厚生労働省の子どもの貧困対策関連の会議の委員をつとめるほか、同じ志を持つ行政、企業や団体との連携も進めています。複数の団体が、それぞれの強みを活かして協働することで、キッズドアだけでは解決できない問題に取り組んでいます。

■ アドボカシー・ロビイング実績（2024/4~12）

対象	(例)	形態・内容	回数
行政	こども家庭庁、厚生労働省、文部科学省、東京都	・提言書手交 ・委員会・部会	16
政治家	石破内閣総理大臣、田村衆議院議員、細野衆議院議員、盛山文科大臣	・提言書手交 ・議員連盟総会 ・ワーキングチーム会合 ・各党ヒヤリング	16
企業等	日本記者クラブ、経済同友会、ユネスコ、日本承継寄附協会	・講演	12
一般（含むメディア経由）	共同通信、NHK、日本経済新聞	・記者会見 ・インタビュー ・投稿 ・シンポジウム	179

子どもの貧困対策推進議員連盟－教育格差WT

2024年度は、政策提言の新たな取組として、子どもの貧困対策推進議員連盟による「教育格差ワーキングチーム」と連携し、現場で活動するNPOからの現状の訴えや、研究者による課題の説明などを行いました。

第1回	2024/4/24	教育格差ワーキングチームの実施体制、各省庁ヒアリング、支援団体ヒアリング
第2回	2024/5/8	「体験格差」の解消に向けて（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン） 困窮家庭の不登校について（認定NPO法人キッズドア） ひとり親家庭の子どもの不登校・行き渋りについて（NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ）
第3回	2024/5/22	ゴールドマン・サックス 大学受験給付型奨学金の成果・受給者アンケート、オンラインによる貧困家庭の高校生への大学受験支援の成果について（認定NPO法人キッズドア/キッズドア基金） 体験格差を補う学童保育の実践事例について（NPO法人放課後NPOアフタースクール） 教育格差改善のための評価指標について（日本大学文理学部教授 末富芳氏）
第4回	2024/6/5	子どもたちの創造的機会の必要性に関する提言（特定NPO法人みんなのコード） オンライン居場所モデル事業での保護者と子どもへのデジタル環境調査結果報告、企業との取組の事例紹介（認定NPO法人キッズドア） 「経済財政運営と改革の基本方針2024」における取り扱いについての検討
第5回	2024/6/19	学用品等の私費負担の調査結果報告（公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン） 子ども・若者の貧困について（東京都立大学教授 阿部彩氏） こども政策・文部科学大臣申し入れの報告、これまでの振り返り
第6回	2024/7/3	「体験格差」について（國學院大學人間開発学部教授 青木康太郎氏） 2024夏 子育て家庭アンケート調査結果報告（認定NPO法人キッズドア）
第7回	2024/11/13	教育格差関連施策への来年度予算検討状況について（こども家庭庁、文部科学省、厚生労働省）
第8回	2025/1/29	「我が国における教育格差の縮小に向けた提言」について（関係団体より重点項目の説明）
第9回	2025/2/5	「大学入学金の二重払いについて」（入学金調査プロジェクト、文部科学省） 学用品の私費負担軽減について（文部科学省）
第10回	2025/2/12	放課後児童クラブ・放課後子ども教室と体験格差について（こども家庭庁、文部科学省） 学用品の学校備品化について（文部科学省）
第11回	2025/3/5	困窮家庭の不登校対策について（文部科学省） 放課後デイサービスと不登校対策の現状について（こども家庭庁）
第12回	2025/3/19	通信制高校への支援について（NPO法人キャリアbase、文部科学省）



2024年度に実現した子ども関連の支援施策

アドボカシー活動の継続により、2024年度には児童手当や児童扶養手当、高等教育の修学支援新制度などで支援拡充が実現しました。児童手当の高校生年代までの延長は、キッズドアがずっと要望してきたことであり、長年の活動が実りました。物価高騰が続く中、困窮子育て家庭への現金給付や、児童扶養手当の所得制限の緩和など、子どもの貧困やひとり親支援に取り組む団体とともに要望を続けています。

児童手当の拡充

2024年10月から支給期間が高校生年代まで延長されるとともに、第3子以降支給額、支給頻度増加等の変更がありました。

○児童手当変更のポイント○

- ・ 所得制限撤廃
- ・ 支給期間延長
中学生まで→高校生年代まで(※)
- ・ 第3子以降の支給額3万円に増加
- ・ 支払月が年6回に増加(偶数月支払い)

※ 18歳に達する日以後の最初の3月31日まで。

	これまで	2024年10月から
3歳未満	一律15,000円	第1・2子:15,000円 第3子以降:30,000円
3歳~小学生	第1・2子:10,000円 第3子以降:15,000円	第1・2子:10,000円 第3子以降:30,000円
中学生	一律10,000円	
高校生年代	0円(対象外)	

児童扶養手当

2024年11月から所得限度額や第3子以降加算額が引き上げられました。

○児童扶養手当変更のポイント○

- ・ 所得限度額の引上げ
→収入ベースで20~30万円の引上げ

扶養する児童等の数	全部支給となる所得限度額 (世帯員世帯本人の標準所得)				一部支給となる所得限度額 (世帯員世帯本人の標準所得)			
	収入ベース		所得ベース		収入ベース		所得ベース	
	これまで	R6.11月分	これまで	R6.11月分	これまで	R6.11月分	これまで	R6.11月分
0	1,220,000	1,420,000	490,000	690,000	3,114,000	3,343,000	1,920,000	2,080,000
1人	1,600,000	1,900,000	870,000	1,070,000	3,650,000	3,850,000	2,300,000	2,460,000
2人	2,157,000	2,443,000	1,250,000	1,450,000	4,125,000	4,325,000	2,680,000	2,840,000
3人	2,700,000	2,986,000	1,630,000	1,830,000	4,600,000	4,800,000	3,060,000	3,220,000
4人	3,243,000	3,529,000	2,010,000	2,210,000	5,075,000	5,275,000	3,440,000	3,600,000
5人	3,763,000	4,013,000	2,390,000	2,590,000	5,550,000	5,750,000	3,820,000	3,980,000

※所得限度額の表は、こども家庭庁「児童扶養手当」に関する大切なお知らせより転載。

- ・ 第3子以降加算額を第2子と同額に引上げ

	全部支給	一部支給
第3子以降加算額	6,450円 →10,750円	3,230~6,440円 →5,380~10,740円

高等教育の修学支援新制度

2024年度から大学等授業料減免等の対象が一部中間層にも拡大されました。さらに、2025年度からは、多子世帯について所得制限が撤廃されました。

○修学支援新制度変更のポイント○

- ・ 2024年度から、世帯年収約600万円までの中間層について、多子世帯や私立理工農系に通う学生を新たな対象に。
- ・ さらに、2025年度からは、多子世帯の所得制限を撤廃。

2024年の変更 授業料減免等の中間層への拡大
世帯年収600万円程度までの以下に該当する家庭も対象に

多子世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象:扶養の子ども3人以上 ・ 全額支援の1/4を支援(給付型奨学金と授業料等減免)
私立理工農系	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象:私立理工農系に通う学生 ・ 私立学校の文系との授業料差額を支給

活動と成果

■ アドボカシー・ロビイング実績 (2024/4~12)

対象	(例)	形態・内容	回数
行政	こども家庭庁、厚生労働省、 文部科学省、東京都	・提言書手交 ・委員会・部会	16
政治家	石破内閣総理大臣、田村衆議院議員、 細野衆議院議員、盛山文科大臣	・提言書手交 ・議員連盟総会 ・ワーキングチーム会合 ・各党ヒヤリング	16
企業等	日本記者クラブ、経済同友会、ユネスコ、 日本承継寄附協会	・講演	12
一般 (含むメディア経由)	共同通信、NHK、日本経済新聞	・記者会見 ・インタビュー ・投稿 ・シンポジウム	179

■ キッズドアの提言 (2024年)

夏	困窮子育て家庭への現金給付
	困窮子育て家庭の体験格差を縮める支援
	年収300万円未満の家庭への恒久的な現金給付 最低賃金の100円以上アップ
冬	住民税非課税要件の見直し
	特定公益増進法人等に対する寄附金の全額損金算入 企業からの中古PC寄附に係る税制優遇

■ 共同提言(2024年)

キッズドア以外の団体 (公益財団法人あすのば、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン)

児童扶養手当所得制限引上げ
児童扶養手当の増額
困窮ふたり親世帯へ児童手当の上乗せ支給



子どもの教育格差に関するシンポジウム

教育格差解消に向けた連携の力
政財界、アカデミア、ソーシャルセクター等の協働で築く未来

本シンポジウムでは、教育格差の解消に向け、様々な支援の担い手（政財界、アカデミア、ソーシャルセクター等）が一層に立ち、問題の認識を共有するとともに、相互の連携強化について、活発な意見交換を行います。子ども支援活動に関心のある企業・行政・NPO等団体の皆様、ぜひこの機会にご参加ください。

2025年
日時 1月22日(水)
15:00~17:00 会場 野村コンファレンスプラザ日本橋
東京都中央区日本橋富町2丁目4番1号
VSTO 日本橋東口駅前ビル4Fホール
※オンラインや録画での配信はございません。

挨拶

児童扶養手当 児童扶養手当 児童扶養手当
田村 聖久 氏 日色 保氏 渡辺 由美子氏

基調講演

東京都立大学教員 子ども・若者貧困研究センター センター長
阿部 彰氏
「子どもの貧困について」 子どもの貧困についての著書も出版

パネルディスカッション 「教育格差解消に向けての取り組み」

児童扶養手当 児童扶養手当 児童扶養手当
小川 光治氏 日色 保氏 渡辺 由美子氏

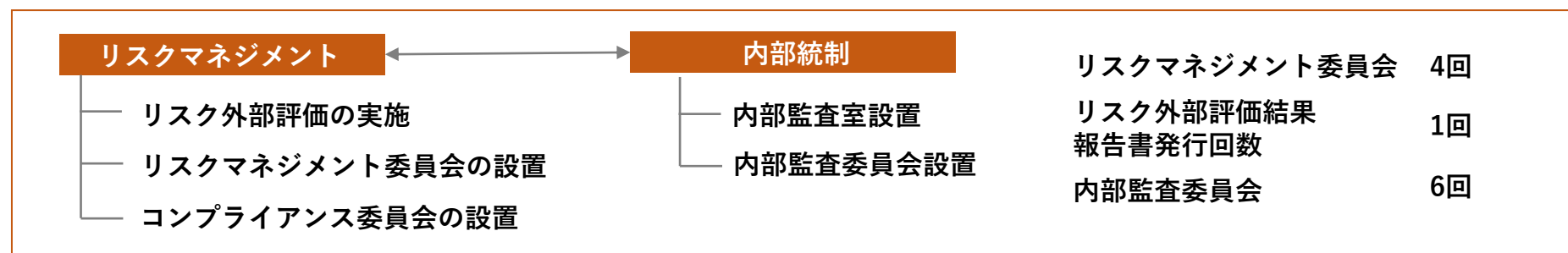
定員 180名 (先着順となります)

参加申込 右記のQRコードまたはURLからお申込みください。・・・
申込締切: 1月15日(水) 12:00

ガバナンスと内部体制の強化

すべてのステークホルダーからの信頼を得るために

キッズドアは、2021年10月に東京都から認定を受け、認定NPO法人になりましたが、認定NPO法人として今後も信頼に足る団体であり続けるためには、組織拡大に耐えうるガバナンス・内部統制の強化が必要となります。2025年10月1日には、公益財団法人日本非営利組織評価センターが新たに開始した、適切なガバナンスを行なっていることを証明する信頼の証「グッドギビングマーク」の第1弾の認証団体として認証されました。



リスクマネジメント委員会の設置

リスク評価において特定されたリスクを適切にコントロールするためのアクションプラン作成、進捗確認、および新たな業務等に対するリスク評価を行うリスクマネジメント委員会を2022年に設置しました。インテグリティ総合研究所にも同委員会に外部指揮者として参加、ご助言いただきます。

内部監査委員会の設置

社外理事を委員長とする内部監査委員会を設置し、執行部の外側から内部監査活動を指示・監督しています。内部監査室には、内部監査士の資格を持つ専任職員を配置し、通年で内部監査業務を行なっています。

インテグリティ総合研究所合同会社：コンプライアンス&企業倫理コンサルティングサービスを提供。代表の原誠一氏は、日本債券信用銀行、PwC Japan在籍時から、官公庁や大手金融機関向けにリスク管理態勢全般のコンサルティングを行なっている第一人者。

キッズドアの活動は、
みなさまからのご寄付によって支えられています。
困窮する日本の子どもたちとそこそご家庭を支えるために、
ぜひ財政的なご支援をお願いいたします。



ご寄付について

月々1,000円から毎月一定額を継続的にご支援いただけます。
また、その都度寄付をすることも可能です。ウェブサイトから、
クレジットカードをはじめ様々な支払い方法で簡単にお手続き
していただけます。

<https://kidsdoor.net/support>



税制優遇について

キッズドアにご寄付いただいた場合、税制優遇を受けること
ができます。詳しくはこちらをご覧ください。

<https://kidsdoor.net/support/deduction.html>



発行：

認定特定非営利活動法人キッズドア

東京都中央区新川2-16-10プライムアーバン新川2階

<https://kidsdoor.net/>

キッズドア調査室

2025年11月26日発行